

# 履修の手引き

令和8年度（2026年度）入学生用

## 理工学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

### 【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- V 専門教育について【理工学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等

※この手引きを読んで、わからないことがあったら  
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。  
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和8年度（2026年度）行事日程

前期	4月	2日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		6日（月）		学部新入生学生証等配付
		7日（火）		入学式 編入学生オリエンテーション
		8日（水）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（水）～10日（金）	前期履修申告	
		9日（木）～10日（金）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生）
		中旬		[奨学金]在籍報告 （前年度からJASSO給付奨学金を継続する方）
		14日（火）	授業開始【前期・クォーター（ ）】	
		14日（火）～20日（月）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生以外）
		14日（火）～20日（月）	履修申告訂正	
		30日（木）	水曜授業日	
		5月	8日（金）	月曜授業日
8日（金）～14日（木）	履修申告取消期間			
16日（土）			盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
20日（水）			前期授業料口座引落日	
6月	1日（月）		開学記念日	
	8日（月）	クォーター（ ）補講日		
	9日（火）	授業開始【クォーター（ ）】		
7月	19日（金）～25日（木）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	21日（火）	月曜授業日		
	29日（水）～8月4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
8月	中旬		[奨学金]前期授業料免除結果通知	
	7月29日（水）～4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
	5日（水）～9月30日（水）	夏季休業		
	6日（木）		オープンキャンパス	
9月	8日（土）～17日（月）		全学一斉休業（閉庁）	
	8月5日（水）～30日（水）	夏季休業		
	18日（金）	前期成績発表		
	25日（金）		9月卒業式	
後期	10月	29日（火）～10月1日（木）	後期履修申告	
		9月29日（火）～1日（木）	後期履修申告	
		1日（木）		10月入学式
		5日（月）	授業開始【後期・クォーター（ ）】	
		5日（月）～9日（金）	履修申告訂正	
		16日（金）	全学休講	
	11月	17日（土）～18日（日）		大学祭
		20日（火）～26日（月）	履修申告取消期間	
		18日（水）	金曜授業日	
	12月	19日（木）	全学休講	
		20日（金）	全学休講	[入試]学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日
		1日（火）	クォーター（ ）補講日	
		2日（水）	授業開始【クォーター（ ）】	
		中旬		[奨学金]後期授業料免除結果通知
		中下旬		[奨学金]継続願 （次年度もJASSO賞与奨学金を継続する方）
	1月	14日（月）～18日（金）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間	
		23日（水）～1月4日（月）	冬季休業	
		28日（月）～1月3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
		12月23日（水）～4日（月）	冬季休業	
		12月28日（月）～3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
	2月	12日（火）	月曜授業日	
		13日（水）	金曜授業日	
		14日（木）～15日（金）	全学休講	
		16日（土）～17日（日）		大学入学共通テスト
3月	5日（金）～12日（金）	後期・クォーター（ ）補講日		
	12日（金）	木曜授業日（補講日）		
	19日（金）～24日（水）		入試準備日	
3月	25日（木）～26日（金）		[入試]一般選抜（前期）	
	9日（火）～11日（木）		入試準備日	
	12日（金）		[入試]一般選抜（後期）	
	19日（金）	後期成績発表		
3月	23日（火）		卒業式	
	24日（水）～31日（水）	春季休業		

上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和9年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

# 目次

令和8年度（2026年度）行事日程

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標	- 1
2 学期区分	- 1
3 本学の履修科目及び履修時期	- 2
4 授業科目の単位	- 3
5 成績評価	- 4
6 授業時間	- 4
7 時間割表の見方	- 4
8 総合学修支援システム	- 5
9 履修の申告	- 5
10 履修科目登録単位の上限	- 6
11 他学部開講科目の履修	- 6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	- 7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	- 8
14 資格試験等による単位認定	- 9
15 ボランティア活動による単位認定	- 10
16 試験	- 10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	- 11
18 成績優秀者	- 11
19 卒業時に授与される学位	- 12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	- 12
21 長期履修学生制度	- 12
22 転学部制度	- 12
23 転学科・転課程制度	- 13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	- 13
25 その他	- 13
参考 学生の修得すべき単位数	- 14
学籍番号	- 14
用語集	- 15
I <sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I <sup>n</sup> Folio	- 16

## 教養教育について（獣医学部を除く）

1 教養教育の理念	- 1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	- 1
3 履修方法及び開設授業科目	- 6
4 選択について	- 10
参考 開設授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表	- 11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
理工学部	- 17

履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

## 専門教育について 【理工学部】

---

理念と目標，教育目的，修得すべき能力	- 2
理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 2
1 岩手大学理工学部教育課程規則	- 1 6
2 理工学部専門教育課程	- 1 9

## 教育職員免許状・各種資格の取得方法

---

1 教育職員免許状の取得に当たって	- 1
理工学部	- 1 1
2 その他各種資格の取得に当たって	- 2 2

## 国際教育科目について

---

1 国際教育科目の理念と教育目標	- 1
2 履修方法および開設授業科目	- 3

## その他プログラムについて

---

1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	X- 1
2 IHATOVグローバルコースについて	X- 2
3 イーハトーヴ協創コースについて	X- 4

## 関係法規等

---

1 岩手大学諸規則
2 関係法令

# 科目履修に当たって 知っておくべきこと

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

### 1 大学の目的・教育目標

本学は、国立大学法人岩手大学学則において、次のことを「大学の目的」として掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の目的・教育目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部に入学し、卒業するまでの4年間（獣医学部は6年間）に教養教育科目（獣医学部は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が28単位、共通教育科目が30単位、専門教育科目が98～159単位です。

また、教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、さらに教職教育科目を履修する必要があります。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部についてはクラス担任教員や教務担当教員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

### 2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日となっています。（学則第32条）

### 3 本学の履修科目及び履修時期

---

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（技法知科目、学問知科目、探究知科目、実践知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており、2年次、3年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので、低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「[教養教育について](#)」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「[獣医学部について](#)」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており、1年次には少なく、2年次、3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部（獣医学部を除く）で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「[教育職員免許状・各種資格の取得方法](#)」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は、外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが、日本人学生も履修することができます。詳細は「[国際教育科目について](#)」を参照してください。

## 4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

端的には、高等学校では授業時間 = 単位でしたが、大学では授業 + 授業時間外の学習 = 単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (獣医学部)	外国語 健康・スポーツ 実習、演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験、実習、実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義	100	7	1	30
	(グループワークなどが行 われることもあります)	100	14	2	60
専門教育科目 (獣医学部)	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義	45	15	1	30
		(グループワークなどが 行われることもあります)	90	15	2

### 解説

例えば、教養教育科目の「外国語」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

### 授業外学修時間の算出

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、獣医学部は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

## 5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の到達目標、具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

## 6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

### 【獣医学部専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15)*	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（ ）\*の時間は遠隔講義の時のみ

## 7 時間割表の見方

### （1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう設計されています。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （2）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口または 番窓口にお問い合わせください。

## 8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。  
(詳細は「[I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」( - 16 ページ)を参照)

## 9 履修の申告

学期の初めには、必ず履修申告期間内に履修申告(授業科目の登録)をしなければなりません。申告をしないと授業を受けることができず、単位の修得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬(学年暦参照)に履修申告をした科目を取り消すことができます(ただし、集中講義科目は原則開講日の2週間前まで)。詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが、あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません。

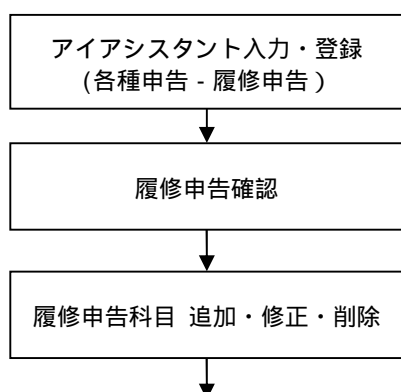
### (1) 履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス(講義要目)」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科(課程)・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード(アルファベットと数字の6桁)を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが異なります。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位(編入学生及び成績優秀者は28単位)までです。詳細は、「[10 履修科目登録単位の上限\(CAP制\)](#)」を参照してください。

### (2) 履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告(集中講義の申告はできません。)

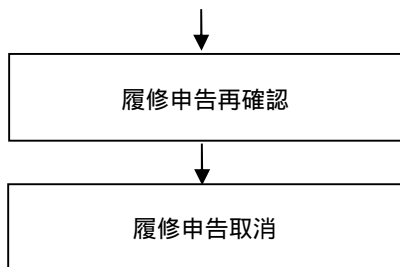


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力してください。**

履修申告結果は、指定された日にアイアシスタントのMy時間割に表示されます。

各自で「**時限(校時)・科目名・時間割コード**」などが正確に登録されているかを必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。

履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

## 10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、1学期につき24単位までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。  
ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・教育学部学生の履修登録単位数の上限は、1学期につき28単位までになる場合がある。（-21ページを参照）
- ・成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、1学期につき28単位を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目、教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

## 11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

## 1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

区分	いわて高等教育コンソーシアム	
協定校	岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手保健医療大学、一関工業高等専門学校	
身分	特別聴講学生	
授業料等	入学料、授業料、検定料は無料 ただし、追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。	
開講科目	開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。	
出願期間	前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬	
卒業単位上限	教養教育科目	教養教育科目の選択の単位として認定します。 (獣医学部の共通教育科目は該当しません。) 人文社会科学部： 4単位まで 教育学部： 2単位まで 理工学部： 4単位まで 農学部： 4単位まで
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。 詳細は、～の各学部専門教育のページを参照してください。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

### 1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単 位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 1 4 資格試験による単位認定

本学では、資格試験で資格を取得又は一定以上の点数を得点した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センター A 棟 番窓口で年 2 回（1 月、7 月）受け付けます。  
詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S - C B T	準 1 級		4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準 1 級	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
	1 級		8	8	
TOEFL (マークシート式677点満点)	500～539点		2	2	
	540点以上	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
TOEFL iBT (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
TOEIC	600～699点	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4 級	初級ドイツ語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ドイツ語(入門・発展)	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5 級	初級フランス語(入門・発展)	2	2	
	4 級	初級フランス語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級フランス語(入門・発展)	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4 級	初級ロシア語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ロシア語(入門・発展)	4	6	
		中級ロシア語	2		
HSK (漢語水平考試) HSK IBT (HSK ネット試験)	2 級	初級中国語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級中国語(入門・発展)	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIK (1級～2級140点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	TOPIK (3級～6級120点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
		中級韓国語	2		
「ハングル」能力検定試験	5 級	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	IBT 5 級				
	4 級以上	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	中級韓国語	2			

### 備考

- 1 認定した単位の評価は、「合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 英語科目又はその他の外国語の資格試験において、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。なお、同一言語で複数の資格試験がある場合は、認定単位数の上限が高いほうを上級とみなす。
- 4 「再履修学生」とは、一度でも初級(入門)あるいは初級(発展)を履修した学生をいう。
- 5 TOEFLとTOEICに関しては、TOEFL - I T PとTOEIC - I Pも資格試験の対象とする。

資格試験による単位認定は、履修申告し受講している(した)授業の代わりになるものではありません。よって資格試験による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

## 1 5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で、一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます(各年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

## 1 6 試 験

### 試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

### 1 . 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。なお、試験当日の授業回は試験のみではなく、試験と併せて授業(振り返り等)が行われます。

#### (1) 試験についての注意事項

受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。

万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟 番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。

原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。

試験開始後20分間、退室は認められない。

答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。

試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。なお、不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。

試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。

試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。

申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

## (2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟 番窓口に願い出ることができます。

負傷又は疾病 (必要添付書類...医師の診断書等)

天災その他突発事故 (必要書類...その事由を証明する物)

忌引き (必要書類...死亡診断書の写し等)

列車等の遅延 (必要書類...遅延証明書)

その他特別に事情があると認められる場合(必要書類...その事由を証明する物)

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

## 2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

## 1.7 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

---

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

## 1.8 成績優秀者

---

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を単位数の点で10分の9以上得て、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「20 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

## 1 9 卒業時に授与される学位

本学に4年以上(獣医学部は6年以上)在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士(総合科学)	
教育学部卒業生		学士(教育)	
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士(理工学)
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士(情報学)
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士(工学)
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科	学士(農学)	
獣医学部卒業生	共同獣医学科	学士(獣医学)	

## 2 0 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)

2年次後期までの全学期に成績優秀者(「1 8 成績優秀者」を参照)として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究(最終試験を含む。)の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。(関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照)

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

### 2 1 長期履修学生制度 獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間(最長6年まで)にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟 番窓口に申し出てください。

(申請時期: 2月末日又は8月末日まで 対象: 1~3年次まで)

### 2 2 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 3 転学科・転課程制度

---

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

---

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

(注意事項)

本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

## 2 5 その他

---

### (1) 大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡(例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など)は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

### (2) 気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報(暴風警報及び暴風雪警報に限ります。)又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

< 参考 >

\* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育)、各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		28		98	126
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	28		109~ 118	137~ 146
		中学校教育コース			106~ 115	134~ 143
		理数教育コース			109~ 111	137~ 139
		特別支援教育コース			107	135
理工学部	理工学科		28		99	127
農学部	食料農学科		28		98	126
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			30	159	189

\* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

* 学部学科等 (3桁)	* 入学年度 (2桁)	* 通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 SB1 理工学科 農学部 AB1 食料農学科農学コース AB2 食料農学科食品健康科学コース AB3 生命科学科分子生物機能学コース AB4 生命科学科分子生命医科学コース AB5 地域環境科学科革新農業コース AB6 地域環境科学科森林科学コース AB7 動物科学・水産科学科動物科学コース AB8 動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 VB1 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2026年入学 = 26  編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生 = 24	個人を特定する番号で3桁となります。  例： 1番 = 001 10番 = 010

(例)

「2026年度入学 食料農学科農学コース99番」の学生の場合は、「AB126099」であり、分解すると、「AB1 = 学部学科等・26 = 入学年度・099 = 通番」となります。

## 科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

### アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

### インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間が長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

### CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくは -6 ページを参照)

### いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を修得したり、図書館を利用することができます。

### 集中講義

通常の授業とは別に、特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度アイアシスタント等でお知らせします。

### シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見るすることができます。

### GPA(ジー・ピー・エー: Grade Point Average)

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では、各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント(秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0)を掛けた数字の合計を、履修した単位数で割って算出した値をGPAとしています。

#### 【本学のGPA算出方法】

$$GPA = \frac{\text{「秀」単位数} \times 4 + \text{「優」単位数} \times 3 + \text{「良」単位数} \times 2 + \text{「可」単位数} \times 1 + \text{「不可」単位数} \times 0}{\text{「秀」単位数} + \text{「優」単位数} + \text{「良」単位数} + \text{「可」単位数} + \text{「不可」単位数}} \quad (1)$$

(1)は履修単位数×成績評価によるポイントの合計、(2)は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし、成績評価がないもの(「合」など)、「保留」となっているものは含まれません。

なお、不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合、再履修による結果でGPAを算出します(再履修による単位修得後は、不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます)。

### JABEE(ジャビー: Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

### ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生の書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオを使用しています。

### 履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

# I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

## 1. I<sup>n</sup> Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

I<sup>n</sup> Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass や I<sup>n</sup> Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日(逐次)利用するようにしてください。

### <システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

[iphone 等版 \(App Store\)](#)



[Android 版 \(Google Play\)](#)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

### <ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」、「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ(初回のみ)してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配付されます。

これは、大学の端末室(パソコン教室)のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

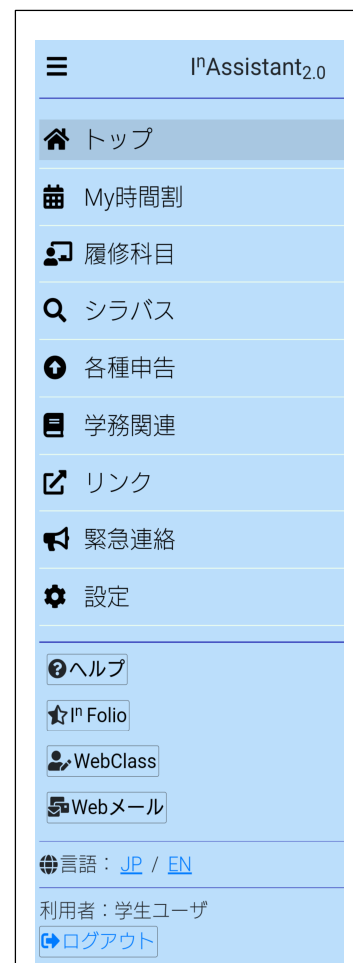
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

### <トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係(休講、補講、教室変更、その他)、学務部からの各種お知らせ、呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活、学生支援(授業料免除や奨学金等含む)、地域協創教育、キャリア支援、留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



### < My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割、開講される講義室等が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

### < 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

### < シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

### < 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格(等)の種類を登録することができます。

### < 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

### < リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

### < 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

### < 設定 >

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

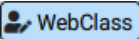
## 2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配付やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

### < 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして、利用します。

なお、My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または  をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	<a href="#">初級フランス語(入門)</a>	
2		<a href="#">経済のしくみ</a>

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

#### < 教材 >

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

#### < マイレポート >

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

#### < 成績 >

成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

#### < 出席 >

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

#### < マニュアル >

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



### 3. 1<sup>st</sup> Folio (アイフォリオ)

1<sup>st</sup> Folio (以下「アイフォリオ」という。)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー、以下「DP」という。)の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力(学士課程共通のDP)、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

#### < 利用 >

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

#### < 学生情報 >

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

#### < ポリシー >

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

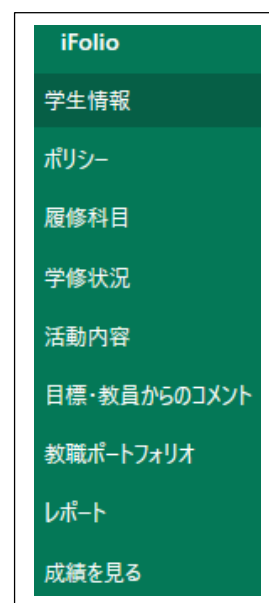
DPグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DPに対する重みづけから算出された達成量です。

#### < 履修科目 >

履修した科目について、学修状況を評価入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。



#### <レポート>

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

#### <学修状況>

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

#### <活動内容>

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

#### <目標・教員からのコメント>

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

#### <教職ポートフォリオ>

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

#### <成績を見る>

自身の修得単位、成績の状況を確認することができます。

また、修得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照のうえ、各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、前述の各種自己評価を入力する必要があります。

#### <マイレージ>

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」、地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

## 大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

# 教養教育について

( 獣医学部を除く )

# 教養教育について (獣医学部を除く)

## 1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

## 2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

### 教養教育の教育目的及び修得すべき能力

#### <教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

#### <修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

### 教養教育科目の構成(科目区分等)

教養教育科目は、前述の教育目的を達成するために、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

区分			
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語
			英語以外
			日本語
		健康・スポーツ科目	
		情報科目	
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	
		理学・工学領域科目	
		農学領域科目	
	探求知科目	環境科目	
	実践知科目	地域関連科目	地域科目
地域課題演習科目			

### 各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

#### A 技法知科目

## <教育目的>

「技法科目」は、外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

## <修得すべき能力>

「技法科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

## 1. 外国語科目

### ・英語

#### <教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

### ・英語以外の外国語

#### <教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
  - ・ドイツ語技能検定試験 4級
  - ・実用フランス語技能検定試験 4級
  - ・ロシア語能力検定試験 4級
  - ・中国語検定試験 4級
  - ・漢語水平考試（HSK） 3級
  - ・韓国語能力試験 TOPIK（1～2級 140点以上）
  - ・ハングル能力検定試験 5級

(2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・中国語検定試験 3級
- ・漢語水平考試 (HSK) 4級
- ・韓国語能力試験 TOPIK (3~6級 120点以上)
- ・ハングル能力検定試験 4級

- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

## ・日本語

### <教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

### <修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

## 2. 健康・スポーツ科目

### <教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを实践する力を養うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通じて他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを实践する能力

## 3. 情報科目

### <教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

### <修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

## B 学問知科目

### <教育目的>

「学問知科目」は、学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、多様な学問領域への関心を高め、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

### <修得すべき能力>

「学問知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 知識の修得を通じて、物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 知識の修得を通じて、多様な価値観を受け入れることができる能力

(3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

### 1. 人文社会科学・教育学領域科目

#### <教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は、人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から、多様な文化の形成や意義、社会の成り立ち、教育や心理に関する諸問題を理解し、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会、教育、心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会、教育、心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 2. 理学・工学領域科目

#### <教育目的>

「理学・工学領域科目」は、理学及び工学における各学問分野の視点から、自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 3. 農学領域科目

#### <教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

## C 探究知科目

### <教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

### 1. 環境科目

#### <教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどにに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

### 2. 地域関連科目

#### <教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

**・地域科目**

**< 教育目的 >**

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

**D 実践知科目**

**< 教育目的 >**

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

**・地域課題演習科目**

**< 教育目的 >**

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

### 3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

**同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。**

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ、または後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

#### A 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 a - 1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合 (中級)	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合 (中級)	1	1	初級中国語(入門)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	初級中国語(発展)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(入門)	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(発展)	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語(入門)	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語(発展)	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

- 履修年次 -

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること(掲示により確認すること)。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。

3. 英語総合 ・ は「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーション ・ は「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。

4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。

5. 英語以外の外国語は、初級(入門)、初級(発展)の順に履修すること。

ただし、集中型(入門と発展を併せて週4回行う。)の授業の場合は、同時に履修すること。

6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。

7. 外国人留学生は、母語(native language)、およびCEFR C1 レベル以上の既習得言語を、「外国語科目」として履修できない。

8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。

9. 「英語」については、上記のほか表 a - 2のとおり開設授業科目がある。

表 a - 2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (科学英語)	1	1	2年次以上対象

- 履修年次 -

「英語発展」は2年次以上に履修すること。

なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。  
 2. 英語発展A～Dに履修の順番はない。ただし、英語発展B (TOEIC 中級)の単位を修得した場合、英語発展A (TOEIC 初級)を履修することはできない。  
 3. 英語発展A (TOEIC 初級)は、TOEICスコア500点を到達目標とした授業である。  
 英語発展B (TOEIC 中級)は、TOEICスコア600点を到達目標とした授業である。  
 英語発展C (実践英語)は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。  
 英語発展D (科学英語)は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 b

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

- 履修年次 -

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位)は必ず履修すること。  
 2. 健康・スポーツC (シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ履修できる。  
 3. 健康・スポーツBと健康・スポーツC (シーズン)は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 c (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎A	2	1	機器の操作含む
情報基礎B	2	1	機器の操作含む

- 履修年次 -

全学部とも情報基礎Aは1年次前期に、情報基礎Bは1年次後期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること(時間割及び掲示により確認すること)。

- (注) 1. 全学部とも情報基礎A (2単位)は必ず修得すること。情報基礎B (2単位)は1年次後期に履修することができる。  
 2. 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B 学問知科目

(1) 「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 d

授 業 科 目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

(2) 「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 e

授 業 科 目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

(3) 「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 f

授 業 科 目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C 探究知科目

(1) 「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 g

授 業 科 目	単位数	週時間数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

(2) 「地域科目(地域関連科目)」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 h

授 業 科 目	単位数	週時間数	授 業 科 目	単位数	週時間数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業・企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創I	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D 実践知科目

(1) 「地域課題演習科目(地域関連科目)」の開講授業科目及び履修方法等  
表 i

授 業 科 目	単位数	週時間数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修-世界から地域を考える-	2	集中

(注) 地域課題演習科目(2単位)は、人数制限があるので注意すること。

#### 4 「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、情報科目、人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については、所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお、「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考: 履修授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考			
技法知 科目	英語	英語総合 (初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)			
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語総合 (初級)	1	選択	1				
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語発展A (TOEIC 初級)	1	選択	2 前				
		英語発展B (TOEIC 中級)	1	選択	2 後				
		英語発展C (実践英語)	1	選択	2 前				
		英語発展D (科学英語)	1	選択	2 後				
		外国語 科目	英語以外	初級ドイツ語(入門)	1		選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
				初級ドイツ語(発展)	1		選択	1	
				中級ドイツ語	1		選択	1 後	
	初級フランス語(入門)			1	選択	1			
	初級フランス語(発展)			1	選択	1			
	中級フランス語			1	選択	1 後			
	初級ロシア語(入門)			1	選択	1			
	初級ロシア語(発展)			1	選択	1			
	中級ロシア語			1	選択	1 後			
	英語以外		初級中国語(入門)	1	選択	1			
			初級中国語(発展)	1	選択	1			
			中級中国語	1	選択	1 後			
			初級韓国語(入門)	1	選択	1			
			初級韓国語(発展)	1	選択	1			
			中級韓国語	1	選択	1 後			
			上級日本語A	1	選択	1 前			
			上級日本語B	1	選択	1 前			
			上級日本語C	1	選択	1 前			
			上級日本語D	1	選択	1 前			
	健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前				
		健康・スポーツB	1	必修 / 選択	1 後				
		健康・スポーツC (シーズン)	1	選択	1 後				
	情報科目	情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)			
		情報基礎B	2	選択	1 後				
	学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目	思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。		
			芸術学	2	選択	1・2			
文学			2	選択	1・2				
言語学			2	選択	1・2				
歴史学			2	選択	1・2				
法学			2	選択	1・2				
憲法			2	必修 / 選択	1・2				
政治学			2	選択	1・2				
経済学・経営学			2	選択	1・2				
社会学			2	選択	1・2				
教育学			2	選択	1・2				
心理学	2	選択	1・2						

履修区分	科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考		
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2		
		自然科学	2	選択	1・2		
		材料科学	2	選択	1・2		
		電気電子工学	2	選択	1・2		
		エネルギー科学	2	選択	1・2		
		数理情報科学	2	選択	1・2		
		機械科学	2	選択	1・2		
		環境・防災学	2	選択	1・2		
		メディア情報学	2	選択	1・2		
		農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
	食品健康科学		2	選択	1・2		
	分子生物機能科学		2	選択	1・2		
	分子生命医科学		2	選択	1・2		
	農業環境工学		2	選択	1・2		
	森林科学		2	選択	1・2		
	動物科学		2	選択	1・2		
	水産学基礎		2	選択	1・2		
	獣医学A		2	選択	1・2		
	獣医学B		2	選択	1・2		
	獣医学C	2	選択	1・2			
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2 前		
		環境B	2	選択	1・2 前		
		環境C	2	選択	1・2 前		
		環境D	2	選択	1・2 後		
		環境E	2	選択	1・2 後		
		環境F	2	選択	1・2 後		
	地域 科目	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
			巨沢賢治の世界	2	選択	1・2	
			危機管理と復興	2	選択	1・2	
			地域産業・企業論	2	選択	1・2	
			ボランティアとリーダーシップ	2	選択	1・2	
			地域協創入門	2	選択	1・2	
			社会連携学A	2	選択	1・2	
			社会連携学B	2	選択	1・2	
			地域協創A	1	選択	1・2	
			地域協創B	1	選択	1・2	
			地域協創C	1	選択	1・2	
			地域協創D	1	選択	1・2	
			地域協創E	1	選択	1・2	
			地域協創F	1	選択	1・2	
			地域協創G	1	選択	1・2	
			地域協創H	1	選択	1・2	
			地域協創I	1	選択	1・2	
			キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
			キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
			日本事情A	2	選択	1・2	
			日本事情B	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2	
多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2				
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2		
		地域グローバル課題演習	2	選択	2		
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2		
		地域課題演習A	2	選択	2		
		地域課題演習B	2	選択	2		
		地域課題演習C	2	選択	2		
		地域課題演習D	2	選択	2		
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2		
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2		
		海外研修-世界から地域を考える-	2	選択	2		

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみまたは後期のみの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の 印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～理工学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下ようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 c 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				理 工 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(1)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
		実践知科目	地域関連科目				地域科目
				地域課題演習科目			
	探究知・実践知科目取得単位数合計				4		
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（1単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

専門教育について

理工学部

専門教育  
理工学部

理工学部の学生の皆さんへ

皆さんの大学における履修は、この本（「履修の手引き」）にすべて記載されていますので、関係する部分を熟読してください。記載内容に変更がある場合は、掲示（アイアシスタント）等でお知らせします。以下に「履修の手引き」の要点を示します。

1．大学における履修全般については、“ 科目履修に当たって知っておくべきこと ” を熟読してください。

2．教養教育科目については、“ 教養教育について（獣医学部を除く） ” を熟読してください。

- ・情報基礎，外国語，健康・スポーツは，指定された時間帯を履修してください。
- ・選択単位には区分ごとに上限があります。

3．各コースの専門科目については， -19～ -44 ページ ” を熟読してください。

4．教育職員免許状については，“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ” を熟読してください。

免許状取得希望者には，1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告してください。

履修に関して分からないことがあったら，学生センターや各クラス/各コースの教務委員または担任へ相談してください。

学生センター相談窓口

- |                  |            |     |
|------------------|------------|-----|
| 教養教育科目に関すること     | …学生センター A棟 | 番窓口 |
| 専門教育科目に関すること     | …学生センター A棟 | 番窓口 |
| 教育職員免許状の取得に関すること | …学生センター A棟 | 番窓口 |

# 理 工 学 部

## < 理念と目標 >

### \* 理念

岩手大学工学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材の育成を目指します。また、科学技術分野における基礎研究と応用研究を積極的に推進することによって自然界の摂理の解明と技術革新の推進に貢献します。

### \* 教育目標

工学部は、以下のような人材育成を行うことによって、我が国が目指す未来社会で必要とされる確かな専門性と情報リテラシーを併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献することを目指します。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性を基礎として、理工学分野における基礎学力と国際水準を満たす専門的知識・専門技術、および倫理性を有し、新しい発想で現代社会の諸課題に積極的に取り組むことのできる人材の育成
- (2) 情報リテラシーを活用しながら、獲得した知識や技術を様々な科学技術分野に役立てることを通して、地域社会と国際社会の諸課題に主体性と協働性をもって取り組むことのできる人材の育成
- (3) 理工学的課題探求心と理解力に基づき、自然科学の様々な現象を根源的かつ包括的に捉えながら人間社会と自然環境の共生を図り、地域社会と国際社会の持続的発展のために「ソフトパス工学」の理念を実践できる人材の育成

### \* 研究目標

工学部は、理工学の幅広い分野における基礎研究から商品化研究までの広範な研究の推進とともに、環境問題、エネルギー問題、巨大災害発生への備え、震災からの復興や地域振興などへの積極的な対応により、地域社会や国際社会の発展に貢献することを目指します。

- (1) 理工学分野およびその周辺分野の基礎研究による自然のしくみの探求と技術革新の推進およびそれらの研究成果に基づく新しいシーズの創出
- (2) 地域社会や国際社会からのニーズの発掘
- (3) 応用研究や実用化研究の推進

### \* 社会貢献目標

工学部は、教育・研究活動の成果を地域社会および国際社会に展開し、これらの発展に貢献することを目指します。

- (1) 産学官民の連携による産業振興への対応
- (2) 環境および福祉問題における諸課題への対応
- (3) 生涯学習社会における諸問題への対応

## < 教育目的 >

工学部は、理工学及びその周辺の専門知識を有し、持続可能な社会づくりのための理工学の構築と実践を理念として、地域や国際社会で活躍できる人間性豊かな人材ならびに科学技術の調和的発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

## < 修得すべき能力 >

工学部では、その教育プログラムを通して、学生が以下のような能力を習得することを目指す。

- (1) 理工学的課題を解決する専門的能力
- (2) 持続可能な社会づくりを見据えた幅広い教養と理工学的基礎能力
- (3) 地域社会や国際社会と主体性を持って協働できる理解力やコミュニケーション能力

## < 工学部及び各コースの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針 >

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは、学生が修得すべき学修の成果を示したもの

であり、学生が理工学部卒業（＝学位授与）までに身につけるべき知識や能力等です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、学位授与の方針を実現するために、教育課程（カリキュラム）をどのように編成し、実施するかを示したものです。

### \* 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：理工学部

- ・ 真理を探究する理学の考え方と、社会の課題解決に資することを志向する工学の考え方をともに理解し、広い教養と柔軟な発想をもって社会の未解決課題に挑戦する姿勢と、そのために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（理工学）」の学位を授与する。
- ・ 社会が抱える様々な課題を理解する教養と、科学技術を応用してそれらを解決しようとする姿勢とを併せ持ち、技術者や研究者として持続可能な社会システムの構築に貢献するために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（工学）」の学位を授与する。
- ・ 高度化する情報化社会の動向を適切に把握できる教養と、コンピュータ・サイエンスに関する専門知識を有し、様々な応用分野で情報技術を駆使するために必要な専門コースが求める能力を身に付けた者に「学士（情報学）」の学位を授与する。

## 理工学科

### 【化学コース】

化学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．幅広い教養と理工学分野の基礎学力を身につけている。
- 2．化学に関する基礎知識とそれに基づく物質化学から生命化学までの専門知識を有し、それらを応用できる。

（思考・判断）

- 3．社会における諸問題を分析し、その解決法を論理的に提案できる。
- 4．化学に関する専門知識に基づいて、直面する課題に対する解決法を思考することができる。

（技能・表現）

- 5．化学技術者として必要な基本的実験技能と情報処理能力を有する。
- 6．実験や調査結果を論理的に表現する文章作成能力を有し、国際的に通用するプレゼンテーション能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

- 7．社会における課題、化学に関する研究動向に関心を持っている。
- 8．化学に関する知識や技能を活かして、持続可能な社会の構築に貢献する意欲と態度を持っている。

### 【数理・物理コース】

数理・物理コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．教養教育、数学、物理、化学の各分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。
- 2．数理科学および物理学に関する幅広い専門知識を有している。

（思考・判断）

- 3．数理科学および物理学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

（技能・表現）

- 4．教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や演習、計算、情報処理の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
- 5．科学英語の読解力と文章力を有するとともに、英語により自らの成果をプレゼンテーション

ンすることができる。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う新現象の解明、研究手法の開発および、数理科学、物理学に大いなる意欲を有している。
7. 社会における科学技術の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術を地域や国際社会の様々な問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

### 【材料科学コース】

材料科学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育および理工学分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。

2. 材料科学および材料工学に関する幅広い専門知識を有している。

(思考・判断)

3. 材料科学および材料工学の観点から諸問題を探索・分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(技能・表現)

4. 技術者、研究者あるいは教育者として必要な基本的な実験やデータサイエンスの技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。

5. 技術者あるいは研究者として必要な科学技術英語の基礎知識と技能を有している。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担う素材・材料開発や評価技術開発に大いなる意欲を有している。

7. 社会における材料科学および材料工学の役割を理解し、高い倫理性を持って、修得した知識や技術を持続的な社会発展に積極的に生かそうとすることができる。

### 【知能情報コース】

知能情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(情報学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と知能情報学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

(思考・判断)

2. 問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。

3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 知能情報システムを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。

5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。

6. 知能情報学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び知能情報学等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。

8. 社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

### 【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、

以下の各項目を身につけた学生に「学士（情報学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．幅広い教養と情報の創造分野に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

2．問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。

3．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

（技能・表現）

4．情報の創造技術を開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。

5．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。

6．情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

7．自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。

8．社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

#### 【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．幅広い教養を備え、電気電子・情報通信工学に関する基本的な原理、法則、理論を理解している。

（思考・判断）

2．専門知識を実際の課題に結びつけて柔軟な思考ができ、創造的に応用することができる。

（技能・表現）

3．電気電子・情報通信に関する機器の動作原理を理解し、活用することができる。

4．他人と議論や協力ができる論理的なコミュニケーション能力・語学力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

5．科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができる。

6．社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

#### 【機械知能航空コース】

機械知能航空コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．豊かな教養を身につけ、理工学に関する幅広い基礎知識と、機械工学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

2．豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる。

（技能・表現）

3．機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけている。

4．日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

（関心・意欲・態度）

5．機械工学関連分野の進展に関心を持ち、専門的知識を活用しながら主体的に学習すること

ができる。

6. 機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を持っている。

### 【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境工学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。
2. 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。
4. 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学修を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学修能力)。

(技能・表現)

5. 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。
6. 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。
7. 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。

(関心・意欲・態度)

8. 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環型社会構築のための技術を考える能力を身につけている。
9. 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。

### \* 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー): 理工学部

理工学部では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、理学、工学の各分野で幅広い教養と基礎学力を養うため、化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コースごとに、教養教育科目、コース専門入門科目、専門基礎科目、理工学専門共通科目、コース専門横断科目および各コース科目で構成される系統的な教育課程を編成している。

### 理工学科

#### 【化学コース】

化学コースでは、物質化学から生命化学までの、国際水準を満たす高度な専門知識・専門技術を有し、さらに幅広い一般教養と語学力を基にして、地域社会と国際社会の持続的発展を実現するうえで解決すべき諸問題に積極的に取り組むことができる人材の育成を目的として定めている。本コースでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養を身に付けさせるために、教養教育科目の履修を必修とし、理工学全般の基

礎的な学力を修得できるように、教養教育、主として数学、物理、化学の講義からなる専門基礎科目を配置している。

2. 化学の専門性を深化できるように、物理化学、無機化学、有機化学を基盤とし、物質化学から生命化学までの応用化学に関する知識、ならびにそれらの知識を応用する能力を修得するための専門科目を配置し、体系的に履修させることを徹底する。

(思考・判断)

3. データサイエンスを活用して化学に関する諸問題の分析とその解決法を提案できるように、情報科目としてデータサイエンスに関する科目を配置している。
4. 基礎化学と応用化学の課題に対する実践的解決法を提案できるように、基盤科目に対応する演習科目を配置している。

(技能・表現)

5. 化学における基本的な実験技能を習得させるために、「化学理工学実験 ・ 」、「卒業研究」などの実験科目を配置し、化学における情報処理の技能を習得させるために、プログラミングに関する科目を配置している。
6. 英語で発表する能力を養わせるために、「科学技術英語」等を配置している。

(関心・意欲・態度)

7. プロジェクトベースラーニング(PBL)科目を通じて、自ら調べた結果を論理的に発表する能力を養わせる。環境・エネルギー・資源への影響を考慮しながら持続的な社会の発展を提案する能力を開発させるために、「ソフトパス理工学序論」等の科目を配置している。
8. 実社会において化学の専門家として活動する際に必要となる素養を身につけさせるために、「技術者倫理」、「社会体験学習」等の科目を配置している。

## 【数理・物理コース】

数理・物理コースでは、数学及び物理に関する幅広い知識・教養を身につけると同時に自然界の真理探究を通じて自然科学と人類社会との関係を総合的に判断出来る知性、品格さらには国際感覚を身につけた人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、物理科学分野と数理科学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と数理科学の専門性深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 1、2年次に、幅広い教養と理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、教養教育科目および、主として数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
2. 数理科学、物理科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための数理・物理コース科目を2年次以降に配置している。
3. 数理科学分野の専門性を深化できるように、微分方程式、線形代数学、複素解析学を基礎に、応用解析学、応用確率統計学などを体系的に履修させることを徹底している。
4. 物理科学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、量子力学、統計力学を基礎に、固体物理学、磁性物理学、光学などを体系的に履修させることを徹底している。

(思考・判断)

5. 数理科学、物理科学の課題に対する理解力・判断力・実践的解決法を確かな専門性に基づき修得させることができるように「物理・材料理工学実験 ・ 」、「社会体験学習」、「特別研修」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を3年次以降に配置している。

(技能・表現)

6. 専門科目で修得した知識や技能を活かす応用力や創造力、情報処理能力を修得させるために「プログラミング学」、「物理学実験」、「物理数学演習 ・ 」、「物理・材料理工学実験 ・ 」、「卒業研究」などの実験・演習科目や教養教育における情報科目を配置している。

7．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修させることを徹底している。

(関心・意欲・態度)

8．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門入門科目や「ソフトパス理工学序論」、「ソフトパス理工学実践」などのソフトパス理工学指定科目を配置するとともに、他コース開講科目をコース専門横断科目として履修可能としている。

9．主体性・協働性を身につけさせるとともに、社会における数理科学および物理科学の役割ならびに技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるために、「ソフトパス理工学実践」などのPBL科目及び「技術者倫理」「原子力工学」などを配置している。

## 【材料科学コース】

材料科学コースでは、材料工学および物質科学に関する幅広い知識と高い専門性のスキルを身につけ、科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担うことができる人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、金属生産工学分野と機能材料理工学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と材料工学及び物質科学の専門性の深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1．1、2年次に、一般教養に関する教養教育科目を配置している。

2．理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、1、2年次に、主に数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。

3．材料工学および物質科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための材料科学コース科目を2年次以降に配置している。

4．金属生産工学分野の専門性を深化できるように、材料物理化学、材料組織学、金属構造材料学などの金属とセラミックスの物理・化学的性質を基礎に、金属工学、材料精製、加工プロセス工学などを体系的に履修させることを徹底している。

5．機能材料理工学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、固体物理学、半導体理工学などを基礎に、新電子材料、生体材料、計測技術、材料設計・解析などを体系的に履修させることを徹底している。

6．課題への理解力と解決法を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践」を配置している。

7．持続可能な社会を実現するソフトパスの概念を身につけさせるために、1年次に「ソフトパス理工学序論」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

(思考・判断)

8．材料工学および物質科学分野の課題に対する実践的解決法を修得させることができるように、3年次以降に「物理・材料理工学実験」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を配置している。

(技能・表現)

9．専門科目で学んだ知識を活用する実践能力や実験等で得られたデータを適切に処理・活用する技能を修得させることができるように、「物理学実験」、「物理・材料理工学実験」、「プログラミング学」を配置している。

10．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。

11．情報リテラシーを身に付けるために、1年次に「情報基礎A」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を配置している。

(関心・意欲・態度)

- 12．専門科目で修得した知識や技能を材料開発や評価技術開発へ生かす応用力と創造力を育成するため、「特別研修」、「特別講義」、「工場見学」を3年次以降に配置している。
- 13．主体性および共同性を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践(PBL)」を配置している。
- 14．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門横断科目および他コース開講科目を選択科目として履修可能としている。
- 15．社会における材料工学および物質科学の役割、及び、技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学序論」、「技術者倫理」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

## 【知能情報コース】

知能情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論から知能情報工学、メディア情報工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

- 1．幅広い教養と知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び、情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

- 2．問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「数理計画法」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年時に配置している。
- 3．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AIデータサイエンス実践演習」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

- 4．知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2年次～4年次前期に系統的に履修できるように配置している。また、知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「ロボティクス」、「人工知能」、「コンピュータグラフィックス」、「メディアシステム」、「コンパイラ」、「情報デザイン」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。
- 5．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。
- 6．知能情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語(英語、英語以外)や専門科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(情報)」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

- 7．自然科学、地域課題、及び知能情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるため、教養教育科目の履修を必修としている。
- 8．社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目のソフトパス理工学序論を必修とし、専門科

目として情報学特別講義などの講義科目を配置している。

### 【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論からメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養とメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「コンピュータグラフィックス」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年次に配置している。

3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AI・データサイエンス実践演習」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

4. 情報を創造するためのソフトウェア、使いやすいユーザインタフェース、人にやさしいデジタルコンテンツなどを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的な能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2、3年次に系統的に履修できるように配置している。また、メディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「情報デザイン」、「創造デザイン」、「コンピュータグラフィックス」、「ヒューマンインタフェース」、「メディアシステム」、「ロボティクス」、「人工知能」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。

5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。

6. 情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語(英語、英語以外)や専門科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(情報)」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるために、教養教育科目の履修を必修としている。

8. 社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目の「ソフトパス理工学序論」を必修とし、専門科目として「情報学特別講義」などの講義科目を配置している。

### 【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースでは、地球環境や人の暮らしなど持続可能な社会に高い関心を持ちながら、効率化とクリーンエネルギー化が進む電気エネルギー技術、材料や微細化により高度化が進む電子デバイス技術、社会の隅々まで張り巡らされる情報通信技術の基礎を修得し、

これらの技術の発展に貢献できる人材を育成する教育研究を行う。電気電子・情報通信コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 科学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を多面的に考えることができる素養を育み、豊かな人格形成に資するために教養教育科目の履修を義務付けている。さまざまな専門分野の根底を形成している普遍的な数理や、自然科学の基礎的知識を修得させるために、低年次に数学、物理学、化学に関する専門基礎科目を配置している。

専門的となるコース科目では、電気回路、電磁気学、電子回路、計測・制御に関する科目群を基幹の必修科目としており、電気電子・情報通信の分野を学ぶための基礎を築くことができるようにしている。また、数学と電気工学の橋渡しとして電気数学を設け、学び始めでつまづかないように配慮した構成としている。

3年次からは情報通信分野、電子デバイス分野、電気エネルギー分野の3分野において、より深く専門化した科目を用意し、難易度や前提となる予備知識に応じて、系統的に学ぶことができるように科目を配置している。

(思考・判断)

2. 講義で学んだ専門知識をベースとして、実社会と結びつけて課題を発見することができ、柔軟な思考により問題解決への道を探り創造的に応用することができる人材を育成するために、低年次には「ソフトパス理工学実践」、高年次には「電気電子・情報通信工学専門研修」、「電気電子・情報通信工学先端課題実習」、「卒業研究」を配置している。これらの科目ではPBLの手法が取り入れられている。

(技能・表現)

3. デジタル社会の基礎的な素養としての情報リテラシーの習得や数理・データサイエンス・AIを電気電子・情報通信分野に応用することができるようにするため、「情報基礎A・B」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を1年次に配置している。

4. 電気電子・情報通信に関する機器の動作原理や操作方法を理解し、活用することができるようにするため、「電気電子・情報通信工学基礎実験」、「電気電子・情報通信工学応用実験」、「プログラム言語及び演習」、「組込ソフトウェア実習」、「組込ハードウェア実習」、「電気設計製図」の実習科目を2 - 4年次に配置している。これらの実験・実習により、ハードウェアからソフトウェア・情報通信技術まで幅広く体験的な学修をすることができるようにしている。

5. 4年次の「卒業研究」では自ら調べさせ、能動的に調査・実験・研究を行わせる。成果や結果を発表することや、レポートや論文にまとめる作業により、第三者に論理的に説明する表現能力を醸成させる。また、グローバル社会で活躍するための英語能力を身につけさせるために、「科学技術英語(入門)」、「科学英語技術(電気電子・情報通信)」、「国際研修」を配置している。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができるように、コース内の教員の研究を紹介する「電気電子・情報通信工学特別講義」や、会社経営者や外部研究者を招聘する「電気電子・情報通信工学専門研修」を開講している。さらに、インターシップ等を行う「社会体験学習」も設置している。

7. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけさせるために、学部内共通科目として、1年次に実施する「ソフトパス理工学序論」で基礎的な教育を行い、高年次には「技術者倫理」を配置している。また、企業や自治体における電気電子・情報通信工学の関わりあいを学ぶために「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目も配置している。

## 【機械知能航空コース】

機械知能航空コースでは、多様な地域産業を支え、機械の知能化や航空機開発などのより高い専門性が要求される産業分野で活躍できる人材の育成を目標としている。このため、機械工学の基礎からロボット工学や航空宇宙工学などの先端的な領域まで、幅広い教育課程を編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 豊かな教養と理工学に関する幅広い基礎知識を身につけさせるため、文化、社会、自然、環境等に関する教養教育科目、数学や物理などの理工学に関する基盤的な基礎科目を1、2年次に配置している。

機械システム分野、知能ロボティクス分野、航空宇宙分野などの機械工学に関する基礎的な知識を身につけさせるため、各分野に関するコース内専門科目を配置し、基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる能力を身につけさせるため、1年次にPBL科目の「ソフトパス理工学実践」を配置し、高年次では「機械リサーチ研修」や「卒業研究」などの科目を配置している。

(技能・表現)

3. 機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけさせるため、1年次に教養科目における情報科目、2、3年次に製図・CAD、プログラミングに関する科目を配置している。
4. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけさせるため、1年次と4年次に機械工学分野の英語基礎から学術論文の読解まで幅広く取り組ませる科学技術英語を配置している。また、論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけるため、「機械リサーチ研修」と「卒業研究」を配置している。

(関心・意欲・態度)

5. 機械工学分野の進展に関心を持たせるため、1年次に「機械知能航空入門」を配置して機械工学分野の概要を把握させる。専門的知識を活用しながら主体的に学習する能力を身につけさせるため、高年次では機械技術者のキャリアデザインや社会体験に関する科目を配置し、卒業研究では専門知識を活用しながら主体的に取り組む能力を身につけさせる。
6. 機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身につけさせるため、1、2年次に文化、社会、自然、環境等の教養教育科目を配置し、3年次には「技術者倫理」や「社会体験学習」を配置している。

## 【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境コースでは「安全・安心な社会の構築」と「人と環境に優しい持続可能な社会の創出」を教育理念に、社会基盤・環境工学に関する広範な専門基礎学力を有し、建設工学、環境工学、防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ、問題発見・解決能力を持ち、次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる人材およびそれらの専門性を高めながら、社会基盤・環境工学分野を支え、地域復興のために貢献できる人材、より高い専門性が求められる同分野で活躍できる人材を育成することを目指している。

このような観点から、社会基盤・環境工学コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通りカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得させ、多面的な視点から考えることのできる能力を修得させることができるように「基礎数学」、「微分積分学」などの専門基礎

科目を必修としている。

2. 社会基盤・環境工学の建設工学、環境工学、防災工学の各専門技術に関する知識、ならびにその知識を応用する能力を修得させることができるように専門科目を配置している。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考え、問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を修得させることができるように「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習」、「卒業研究」等を必修としている。
4. 自ら課題を発見・解決しようとする問題意識をもち、自主的・持続的に学修を行う能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、実習系科目である「測量学実習」、「卒業研究」等を必修としている。

(技能・表現)

5. 十分な語学力を身に付け、自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得させることができるように豊かな教養を育む教養科目、および語学科目、専門教育科目の演習系科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(社会基盤・環境)」を必修としている。
6. 種々の工学的な課題に対して、論理的・客観的な意見が述べられるような文章作成能力とプレゼンテーション能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、演習系科目である、「卒業研究」等を必修としている。
7. 他者と協力してチームで仕事をする能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習」を必修としている。

(関心・意欲・態度)

8. 地球環境・地域環境について深く理解し、環境と調和した持続可能な循環型社会の構築のための技術を多面的に考える能力と素養を修得させることができるように教養科目の環境科目、および「環境工学」等の専門教育科目の体系的な履修を徹底させる。
9. 科学技術が社会や自然におよぼす影響や効果を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識できるように「技術者倫理」を必修としている。

## < 特別プログラム >

特別プログラムとは、専門コースの通常の教育プログラムに加えて履修する特別な教育プログラムで、入学試験において当該プログラムの履修を前提に選抜された学生および入学後に選抜された履修生に対して実施し、所定の基準を満たした者に認証を与えるプログラムである。

「データサイエンス応用副プログラム」、「地域協創ものづくりプログラム」、「地域防災・まちづくりプログラム」、「半導体人材育成プログラム」の4つがある。

## データサイエンス応用副プログラム

### \* 教育目的

データサイエンス応用副プログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、データサイエンスの知識を併せ持ち、専門的な技術課題の解決にデータサイエンスの知識を活かすことができる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

データサイエンス応用副プログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) データサイエンスに関する基礎的な知識と実践技術を身につけ、データサイエンスを活用して基礎的な課題を解決できる能力
- (2) 自らの専門性を理解し、専門分野における課題解決にデータサイエンスを応用できる能力

## 地域協創ものづくりプログラム

### \* 教育目的

地域協創ものづくりプログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

地域協創ものづくりプログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ、独自技術を開発して地域産業の発展に貢献できる能力
- (2) 地域課題を理解し、多様な人々との協創によって課題解決のために自律的に判断・行動できる能力

## 地域防災・まちづくりプログラム

### \* 教育目的

建設工学・環境工学・防災工学の幅広い教養と地域防災やまちづくりの専門分野の知識を身につけるとともに、主体性や協働性を発揮して地域防災を考慮したまちづくりに取り組むことのできるリーダーシップを持ち、「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に関する課題発見および解決に資する科学技術の創生と発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

地域防災・まちづくりプログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- ( 1 ) 社会基盤・環境工学技術に基礎を置くとともに地域防災やまちづくりに対する高い専門性を持ち、今後も想定される災害への備えや地域における防災・まちづくりに取り組むことができるリーダーシップ能力
- ( 2 ) より柔軟な手法の構築により「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に対する現実的な課題の解決を図る総合的なマネジメント能力

## 半導体人材育成プログラム

### \* 教育目的

岩手大学理工学部は、半導体産業の集積化が進む拠点地域の教育・研究機関として半導体人材育成プログラムを設置している。半導体人材育成プログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、半導体の基礎知識を併せ持つことで、半導体産業と自分の専門性の関連性を理解し、半導体産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

半導体人材育成プログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- ( 1 ) 所属コースにおける専門性と半導体産業の関連性を理解できる能力
- ( 2 ) 所属コースにおける専門性を活かし、半導体産業の発展に貢献できる能力

# 1. 岩手大学理工学部教育課程規則

(趣旨)

第1条 岩手大学理工学部(以下「本学部」という。)の教育課程に関する事項は、国立大学法人岩手大学学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規則による。

2 学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、理工学部教授会(以下「教授会」という。)が別に定める。

(目的)

第2条 本学部は、確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことができると共に、国際社会や地域社会が直面している課題を正しく理解し、持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学」の理念を实践できる人材の養成を目的とする。

(コース、初年次教育クラス)

第3条 本学部理工学科に次のコースを置き、2年次以上の学生は、いずれかのコースに所属するものとする。

- 一 化学コース
- 二 数理・物理コース
- 三 材料科学コース
- 四 知能情報コース
- 五 クリエイティブ情報コース
- 六 電気電子・情報通信コース
- 七 機械知能航空コース
- 八 社会基盤・環境工学コース

2 本学部理工学科に次の初年次教育クラスを置き、1年次の学生はいずれかのクラスに所属するものとする。

- 一 化学クラス
- 二 数理・物理クラス
- 三 材料科学クラス
- 四 情報系クラス
- 五 電気電子・情報通信クラス
- 六 機械知能航空クラス
- 七 社会基盤・環境工学クラス
- 八 データサイエンス応用オープンクラス

第4条 本学部に次のプログラムを置く。

- 一 データサイエンス応用副プログラム
- 二 地域協創ものづくりプログラム
- 三 地域防災・まちづくりプログラム

#### 四 半導体人材育成プログラム

2 前項各号に定める各プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。

##### ( 専門教育の科目 )

第 5 条 専門教育においては、別表 1 に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

- 2 科目は、必修科目及び選択科目からなり、講義、演習、実験、実習、製図、卒業研究等による。
- 3 科目の種類及び単位数は、別表 2 による。
- 4 科目の必修と選択の別は、別に定める。

##### ( 履修の方法 )

第 6 条 履修の順序及びその他細部については、各コースにおいて定める。

##### ( 他コース、他学部、いわて 5 大学等の科目の履修 )

第 7 条 学生は、他コース、他学部、いわて 5 大学の授業科目、国際教育科目及び海外協定大学の科目を履修することができる。ただし、設備及び収容人員等の関係で制限されることがある。

- 2 前項の規定により取得した単位は、10 単位の範囲内で別表 1 の選択科目の単位として認めることができる。

##### ( 科目等の公示 )

第 8 条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

##### ( 履修科目の届出 )

第 9 条 学生は、各学期の所定の期日までに履修しようとする科目を学部長及び担当教員に届け出なければならない。

- 2 前項の届出の後、特別の場合を除き科目を変えることはできない。
- 3 学生は、所定の手続を経て、他コース、他学部又はいわて 5 大学の科目履修を願い出ることができる。
- 4 他コース、他学部又はいわて 5 大学の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、許可することがある。

##### ( いわて 5 大学以外の他の大学又は短期大学の科目の履修等 )

第 10 条 本学部が教育上有益と認めるときは、いわて 5 大学以外の他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該大学又は短期大学の科目を履修させることができる。

- 2 学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、学部長の許可を得なければならない。
- 3 第 1 項の規定及びいわて 5 大学で修得した単位は、60 単位を超えない範囲で、本学部において修得したものとみなすことができる。
- 4 前各項に関して必要な事項は、別に定める。

##### ( 留学 )

第11条 本学部が教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学に留学することを許可することができる。

2 学生は、外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは、学部長を経て、学長の許可を得なければならない。

3 外国の大学又は短期大学における履修等については第9条を準用する。

(試験)

第12条 試験は、各学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

(転コース)

第13条 転コースを志願する者があるときは、選考の上許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(修了認定)

第14条 第4条第1項各号に定めるプログラムに在籍している者が所定の科目を履修し必要単位を修得した場合は、当該プログラムの修了を認める。

2 前項の修了の認定は、理工学部長が行う。

附 則 (省略)

別表1 (第5条第1項関係)

修得すべき単位数 (省略)

別表2 (第5条第3項関係)

科目の種類及び単位数 (省略)

## 2. 理工学部専門教育課程

理工学部専門教育課程の履修は、次ページ以降に示す各コース課程表の順序によらなければならない、下記の表に掲げる基準の単位数以上を4ヶ年で有効適切に修得しなければならない。

なお、各表は、初年次クラス 2年次以降配属コースが同系である場合を基本としている。

2年次進級の際、初年次クラスとは他系のコースに配属になった学生は、配属になったコースが定める要件（履修すべき科目、単位数等）を全て満たすことで卒業となるので、留意すること。

3年次課程では専門の必修科目が大半を占めており、各コース専門教育課程表以外の単位修得は困難であるから、3年次課程に入る時には2年次課程までの科目を修得していることが必要である。

4年次課程又は卒業研究に入るためには、コースごとに別に定める基準による。

コース専門教育課程表によることができない場合は、担任又は教務担当教員に相談の上、その指導を受けなければならない。

### (1) 卒業要件単位数

学 科	理 工 学 科
-----	---------

初年次	化学クラス 数理・物理クラス 材料科学クラス 情報系クラス 電気電子・情報通信クラス 機械知能航空クラス 社会基盤・環境工学クラス データサイエンス応用オープンクラス
-----	--

コ ー ス		化 学 コ ー ス	数 理 ・ 物 理 コ ー ス	材 料 科 学 コ ー ス	知 能 情 報 コ ー ス	ク リ エ イ テ ィ ブ 情 報 コ ー ス	電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 コ ー ス	機 械 知 能 航 空 コ ー ス	社 会 基 盤 ・ 環 境 工 学 コ ー ス
専門科目	必 修	65	62	68	63	63	70	70	72
	選 択	34	37	31	36	36	29	29	27
	計	99	99	99	99	99	99	99	99
教養教育科目		28	28	28	28	28	28	28	28
卒業要件単位数		127	127	127	127	127	127	127	127

### (2) 各コース課程表 ( -20 ~ -44ページ)

理工学科  
化学クラス 「化学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注3]
	化学入門		1											}
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門	2												
	情報科学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1											代
		微分積分学	2											解
		微分積分学	2											解
		線形代数学 A	2											代
		確率統計学	2	2										確
	物理系	物理学 A	2											物
		物理学 B	2	2										物
	化学系	化学 A	2											化
		化学 B	2	2										化
	生物系	生物学	2	2										生
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門		1											*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1											*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ
	原子力工学		2											
	技術者倫理	2							(前期)					
	工業経営管理論		2											
	知的財産権概論		2							(前期)				
	特許法特講		2							(前期)				
	社会体験学習		1~2											
	国際研修		1~2											
	化学 C		2											
情報学基礎		2												
電気数学		2											代	
機械工作実習		1												
コース専門横断科目	人工知能		2											コ *DS副プロ
	データベース		2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2											情社 *DS副プロ
化学コース科目	有機化学	2												化 *半導体人材
	有機化学	2												化 *半導体人材
	有機化学演習	1												化
	有機化学演習	1												化
	有機化学演習	1												化
	無機化学	2												化 *半導体人材
	無機化学	2												化 *半導体人材
	無機化学演習	1												化
	無機化学演習	1												化
	無機化学演習	1												化
	物理化学	2												化 *半導体人材
	物理化学	2												化 *半導体人材
	物理化学演習	1												化
	物理化学演習	1												化
	物理化学演習	1												化
	生物化学		2											生
	生物化学		2											生
	プログラミング言語入門	2												
	高分子化学		2											化 *半導体人材
無機分析化学		2											化	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
化学コース科目	生物有機化学		2										生	
	医薬品化学		2										化	
	無機材料化学		2										化 *半導体人材	
	化学工学	2											化 *半導体人材	
	化学工学		2										化 *半導体人材	
	次世代電池工学		2										化 *半導体人材	
	触媒化学		2										化	
	ケミカルバイオロジー		2										生	
	有機分析化学		2										化	
	表面化学		2										化 *半導体人材	
	応用電気化学		2										化 *半導体人材	
	結晶工学		2										化 *半導体人材	
	エネルギー環境科学		2										化	
	半導体分子化学		2										化 *半導体人材	
	科学技術英語(化学)	1												
	化学概論		2											化
	化学研修	1												化
	化学理工学情報	1												化
	化学理工学情報	1												化
	化学理工学実験	3												化実
化学理工学実験	3												化実	
化学理工学研修	1												化	
卒業研究	6												[注1]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門化学		*2											[注2]
卒業要件単位数	65	34												
合計必要単位数	99													

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数ならびに卒業研究配属要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 工場見学を3年次の適当な時期に実施します。
- [5] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
- (1)技術士 (一次試験合格後、実務経験4年で受験資格)
- (2)火薬類取扱保安責任者 (「一般教養科目」と「機械工学・電気工学大要」の試験免除)
- (3)危険物取扱者甲種 (甲種受験資格)
- (4)毒物劇物取扱責任者 (卒業証明書を添えて届出)
- (5)作業環境測定士1種・2種 (卒業後労働衛生の実務経験1年以上で受験資格)
- (6)公害防止管理者 (資格認定講習受講により取得する場合は、本学科を卒業後実務経験が必要。国家試験による場合は受験資格不問)
- (7)廃棄物処理施設技術管理者 (実務経験2年以上で有資格者)
- (8)ボイラー・タービン主任技術者 (第1種は10年以上、第2種は5年以上の実務経験を積んだうえで申請・交付)
- (9)冷凍空調技士第一種 (卒業後2年以上の実務経験で受験資格)
- なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- [6] 教員免許の取得については「教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [7] 備考欄の\*印付きは、各特別プログラム関係科目を示しています。

# 化学コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	芸術科目							
	地域関連科目(地域科目)							
	理工学入門	化学入門 教理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 情報学入門 機械知能航空入門 社会基盤・環境工学入門						
	基礎数学	線形代数学A 微分積分学 確率統計学						
基礎科目	物理学A 化学A	生物学						
学部内共通科目	ソフトウェア工学序論	ソフトウェア工学実践 科学技術英語(入門)						
	半導体入門	AI基礎及び演習 化学C	半導体デバイスと製造プロセス					
	教理・データサイエンス基礎及び演習							
横断科目	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	
	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	
	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	
	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	
	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	
	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	
	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	
	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	
	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	
	国際研修							
化学コース科目	技術者倫理							
	知的財産権概論							
	特許法特講							
	原子力工学							
	工業経営管理論							
	人工知能							
	医薬品化学							
	表面化学							
	無機材料化学							
	次世代電池工学							
ケミカルバイオロジー								
結晶工学								
高分子化学								
半導体分子化学								
化学理工学実験								
化学概論								
エネルギー環境科学								
化学理工学実験								
化学研修								
科学技術英語(化学)								
卒業研究								

差がつぶし(太枠)がある科目は必修科目  
差りつつぶしが無い(細枠)科目は選択科目

理工学科  
数理・物理クラス 「数理・物理コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注4]
	化学入門		1										
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門		1										
	情報学入門	2											選択必修2科目(2単位)
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2	2									代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
	物理系	複素解析		2									解
		確率統計学		2									確
		フーリエ解析	2										解
	化学系	物理学 A	2										物
		物理学実験	1										物実
		化学 A	2										化
	生物学系	化学 B	2										化
		化学実験	1										化実
	地学系	生物学		2									生〔注1〕
		地学		2									地〔注1〕
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論	2							(前期)				
	知的財産権概論	2							(前期)				
	特許法特講	2							(前期)				
	社会体験学習	1~2											
	国際研修	1~2											
	化学 C	2											
	情報学基礎	2											
	電気数学	2											代
機械工作実習	1												
コース専門横断科目	人工知能	2											コ *DS副プロ
	データベース	2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2											情社 *DS副プロ
	科学技術英語(物理・材料)	1											
	数値計算法	2											コ
	プログラミング学	2											コ
	物理・材料理工学実験	2											化実
	物理・材料理工学実験	2											物実
	専門英語セミナー	1											
	特別研修	1											
	特別講義		2										
	特別講義		2										
	工場見学		1										
	熱力学	2											物
	材料組織学	2											工
電気回路学		2										工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期
コース専門横断科目	電磁気学	2											物
	電磁気学		2										物
	量子物理学	2											物
	統計物理学	2											物
	光学		2										物 *半導体人材
	固体物理学	2											物
	電子物性学		2										物 *半導体人材
	材料計測学		2										工
	誘電体材料学		2										工
	半導体理工学		2										工 *半導体人材
	磁性理工学		2										物
超伝導理工学		2										物	
ナノ理工学		2										物	
数理・物理コース科目	物理数学演習	1											幾
	物理数学演習	1											解
	量子物理学		2										物
	粒子線計測学		2										物
	現代物理学		2										物
	現代物理学		2										物
	応用確率統計学		2										確
	応用微分方程式		2										解
	応用解析学		2										解
	幾何学		2										幾
	幾何学		2										幾
	振動論		2										物
卒業研究	6											[注2]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門化学		*2										[注3]
卒業要件単位数		62	37										
合計必要単位数		99											

注意事項

〔注1〕 教員免許(理科)取得希望者は必ず受講してください。

〔注2〕 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注3〕 [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

〔注4〕 [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。

また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

〔1〕 このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。

〔2〕 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

〔3〕 この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔4〕 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。

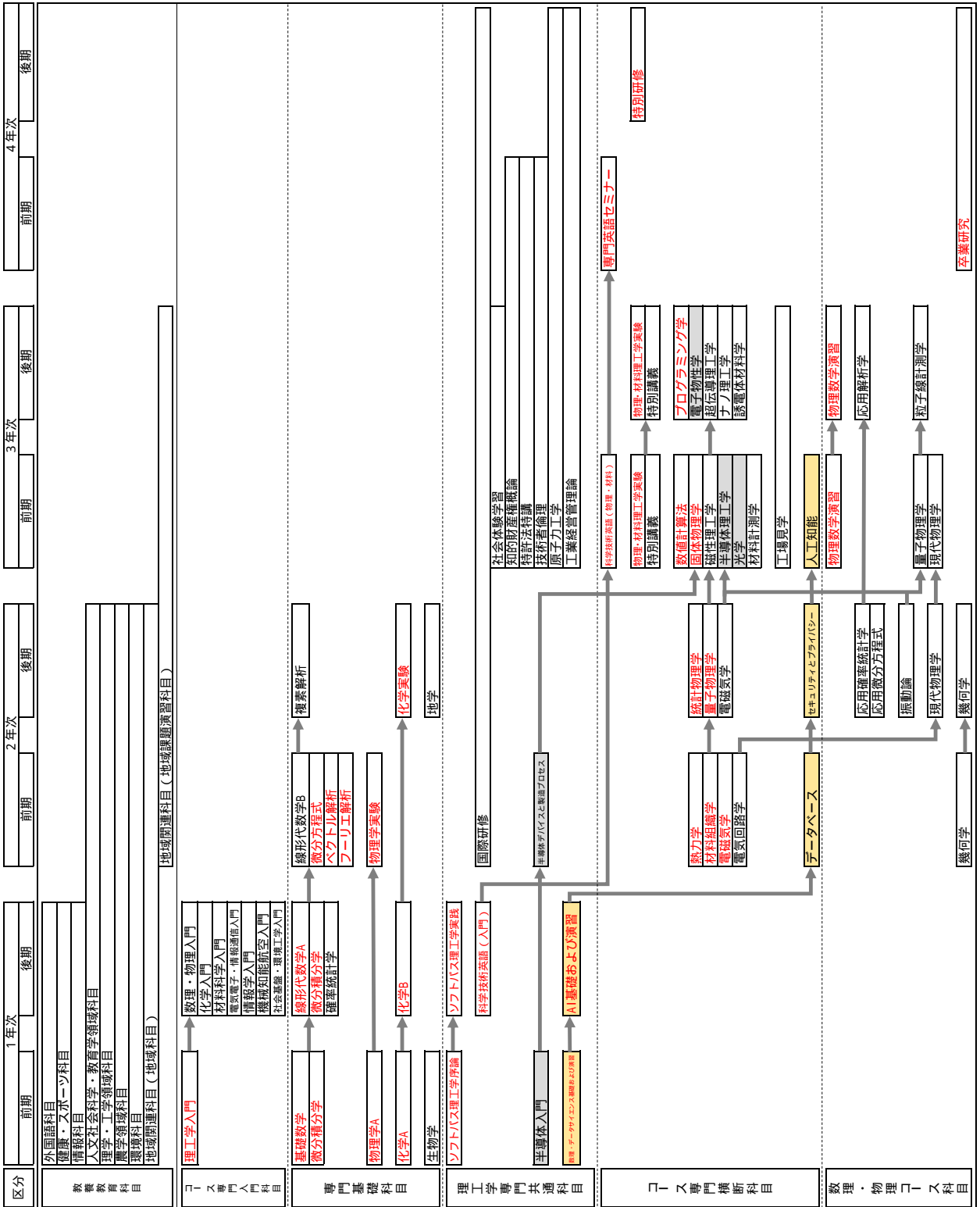
危険物取扱者(甲種受験資格)

なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。

〔5〕 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔6〕 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

教養・物理コース カリキュラムマップ



赤文字 : 必修科目  
黒文字 : 選択科目

理工学科  
材料科学クラス 「材料科学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注4]
	化学入門		1										}
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2	2									代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析	2	2									解
	物理系	確率統計学	2	2									確
		フーリエ解析	2										解
		物理学 A	2										物
		物理学実験	1										物実
	化学系	化学 A	2										化
		化学 B	2										化
		化学実験	1										化実
	生物系	生物学	2	2									生〔注1〕
地学系	地学	2	2									地〔注1〕	
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門	1	1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス	1	1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学	2	2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論	2							(前期)				
	知的財産権概論	2							(前期)				
	特許法特講	2							(前期)				
	社会体験学習	1~2											
	国際研修	1~2											
	化学 C	2											
	情報学基礎	2											
電気数学	2											代	
機械工作実習	1												
コース専門横断科目	人工知能	2											コ *DS副プロ
	データベース	2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2											情社 *DS副プロ
	科学技術英語(物理・材料)	1											
	数値計算法	2											コ
	プログラミング学	2											コ
	物理・材料理工学実験	2											化実
	物理・材料理工学実験	2											物実
	専門英語セミナー	1											
	特別研修	1											
	特別講義	2	2										
	特別講義	2	2										
	工場見学	1	1										
	熱力学	2											物
	材料組織学	2											工
	電気回路学	2	2										工

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門横断科目	電磁気学	2												物
	電磁気学		2											物
	量子物理学	2												物
	統計物理学	2												物
	光学		2											物 *半導体人材
	固体物理学	2												物
	電子物性学		2											物 *半導体人材
	材料計測学		2											工
	誘電体材料学		2											工
	半導体理工学		2											工 *半導体人材
	磁性理工学		2											物
超伝導理工学		2											物	
ナノ理工学		2											物	
材料科学コース科目	材料力学		2											工
	材料物理化学Ⅰ	2												化
	材料物理化学		2											工
	材料組織学		2											工
	金属構造材料学	2												工
	材料強度学	2												工
	材料電気化学	2												化
	半導体デバイス工学		2											工 *半導体人材
	工コ材料学		2											工
	接合工学		2											工
	反応工学		2											工
	製錬工学		2											工
	鑄造材料学		2											工
	複合材料学		2											工
	生体材料学		2											工
非鉄金属材料学		2											工	
卒業研究	6												[注2]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注3]
	理工学入門数学		*2											[注3]
	理工学入門物理		*2											[注3]
	理工学入門物理		*2											[注3]
	理工学入門化学		*2											[注3]
卒業要件単位数	68	31												
合計必要単位数	99													

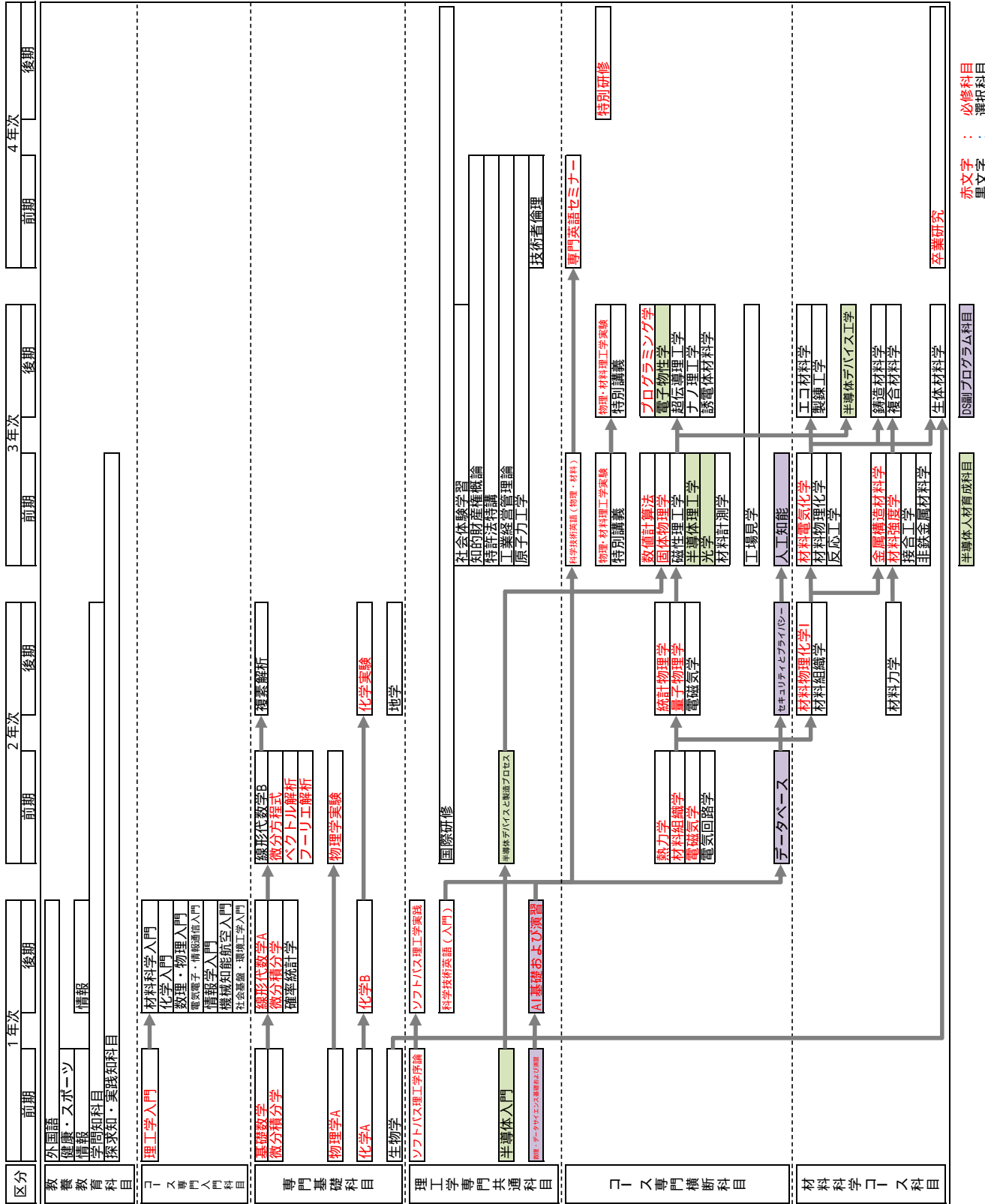
注意事項

- [注1] 教員免許(理科)取得希望者は必ず受講してください。
- [注2] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注3] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注4] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。  
危険物取扱者(甲種受験資格)  
なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。
- [5] 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

材料科学コース カリキュラムマップ



理工学科  
情報系クラス 「知能情報コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注3]
	化学入門		1											選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門	2												
	情報学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1											代
		微分積分学	2											解
		微分積分学		2										解
		線形代数学 A	2											代
		線形代数学 B	2											代
		微分方程式		2										解
		ベクトル解析	2											幾
		複素解析		2										解
	物理系	確率統計学	2											確
		フーリエ解析		2										解
	物理系	物理学 A		2										物
		物理学 B		2										物
	化学系	化学 A		2										化
		化学 B		2										化
生物系	生物学		2	○									生	
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門		1											*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1											*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ
	原子力工学		2											
	技術者倫理		2						(前期)					
	工業経営管理論		2						(前期)					
	知的財産権概論		2						(前期)					
	特許法特講		2						(前期)					
	社会体験学習		1~2											
	国際研修		1~2											
	化学 C		2											
	情報学基礎		2											
電気数学		2											代	
機械工作実習		1												
コース専門横断科目	人工知能	2						○						コ *DS副プロ
	データベース		2							○				情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2					○						情社 *DS副プロ
	データ解析		2					○						確
	離散数学	2						○						代
	論理回路		2					○						コ *半導体人材
	信号処理		2							○				情コ
	画像処理とパターン認識		2							○				情マ
	ロボティクス		2							○				情シ
	コンピュータグラフィックス		2							○				情マ
	メディアシステム		2							○				情マ
	ヒューマンインタフェース		2							○				情マ
	データ構造とアルゴリズム	2							○					情コ
	数値計算		2						○					コ
	デジタル回路設計		2							○				情コ *半導体人材
	コンピュータアーキテクチャ		2							○				コ
	コンピュータネットワーク		2						○					情ネ
オペレーティングシステム		2							○				情コ	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○						情シ
	デジタル通信		2			○							情ネ
	形式言語とオートマトン		2					○					コ
	情報理論		2					○					
	数理計画法		2						○				情コ
	科学技術英語(情報)	1							○				
	情報学特別講義	2						○					
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ *半導体人材
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ *半導体人材
	AIプログラミング言語	1						○					
	AI・データサイエンス実践演習		1						○				
	AI・データサイエンス実践演習		1							○			
	ソフトウェア設計及び演習	2								○			情シ
	ハードウェア設計及び演習	2									○		情コ
	ネットワーク実験	1					○						情ネ
	情報学専門実験	1									○		
	システム創成プロジェクト	2							○				情シ
	情報デザイン		2				○						情マ
	情報デザイン		2						○				
創造デザイン		2				○							
情報職業論		1						○				情社	
知能情報コース科目	コンパイヤ		2							○			情コ
	卒業研究	6									○		[注1]
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注2]
	理工学入門数学		*2										[注2]
	理工学入門物理		*2										[注2]
	理工学入門物理		*2										[注2]
	理工学入門化学		*2										[注2]
卒業要件単位数		63	36										
合計必要単位数		99											

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲載しますので、確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 本コースに関連する国家試験・資格試験には、情報処理技術者試験(基本情報技術者、応用情報技術者等)、CG-ARTS検定(CGエンジニア、画像処理エンジニア等)などがあります。
- [5] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

知能情報コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 理学領域科目 環境科目 地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題演習科目) 基礎数学 線形代数A 微分積分学 微分方程式 ベクトル解析 線形代数B フーリエ解析 複素解析 物理学A 物理学B 化学A 化学B 生物学							
理工学共通科目	ソフトパス理工学序論 ソフトパス理工学実践 科学技術英語(入門) 国際研修 社会体験学習 技術者倫理 工業経営管理論 知的財産権概論 特許法特講 原子力工学							
	数理・データサイエンス領域および演習 AI基礎および演習 半導体入門 半導体デバイスと製造プロセス 情報学基礎							
工学入門科目	理工学入門 情報学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基礎・環境工学入門							
	離散数学 AIプログラミング言語 データ解析 人工知能 AIプログラミング言語 AI・データサイエンス実践演習							
工学横断科目	プログラミング言語及び演習 プログラミング言語及び演習 データ構造とアルゴリズム システム構成プロジェクト システム構成とオートマトン 形式言語とオートマトン 数理計画法 ソフトウェア設計及び演習 ハードウェア設計及び演習							
	論理回路 ネットワーク実験 コンピュータネットワーク セキュリティとプライバシー デジタル通信 コンピュータアーキテクチャ 情報理論 信号処理 コンピュータグラフィックス スデアシステム ロボティクス 画像処理とパターン認識							
工学横断科目	創造デザイン 情報デザイン 情報デザイン ヒューマンインタフェース 情報職業論 情報学特別講義							
	科学技術英語(情報) 情報学専門実験 コンピラ 卒業研究							

赤字: 必修科目  
 青文字: 選択必修科目  
 黒文字: 選択科目

理工学科  
情報系クラス 「クリエイティブ情報コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注3]		
	化学入門		1											選択必修2科目(2単位)		
	数理・物理入門		1													
	材料科学入門	2														
	情報学入門		1													
	電気電子・情報通信入門		1													
	機械知能航空入門		1													
社会基盤・環境工学入門		1														
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1											代		
		微分積分学	2											解		
		微分積分学		2										解		
		線形代数学 A	2											代		
		線形代数学 B	2											代		
		微分方程式		2										解		
		ベクトル解析	2											幾		
		複素解析		2										解		
	物理系	確率統計学	2											確		
		フーリエ解析		2										解		
		物理学 A		2										物		
	化学系	物理学 B		2										物		
		化学 A		2										化		
	生物学	化学 B		2										化		
生物学			2	○									生			
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1														
	ソフトパス理工学実践	1														
	科学技術英語(入門)	1														
	半導体入門		1											*半導体人材		
	半導体デバイスと製造プロセス		1											*半導体人材		
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ		
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ		
	原子力工学		2													
	技術者倫理		2						(前期)							
	工業経営管理論		2						(前期)							
	知的財産権概論		2						(前期)							
	特許法特講		2						(前期)							
	社会体験学習		1~2													
	国際研修		1~2													
	化学 C		2													
情報学基礎		2														
電気数学		2											代			
機械工作実習		1														
コース専門横断科目	人工知能	2						○						コ *DS副プロ		
	データベース		2							○				情シ *DS副プロ		
	セキュリティとプライバシー		2					○						情社 *DS副プロ		
	データ解析		2					○						確		
	離散数学	2							○					代		
	論理回路		2						○					コ *半導体人材		
	信号処理		2							○				情コ		
	画像処理とパターン認識		2								○			情マ		
	ロボティクス		2									○		情シ		
	コンピュータグラフィックス	2										○		情マ		
	メディアシステム	2											○	情マ		
	ヒューマンインタフェース	2											○	情マ		
	データ構造とアルゴリズム	2												○	情コ	
	数値計算	2													○	コ
	デジタル回路設計		2											○	情コ *半導体人材	
	コンピュータアーキテクチャ		2												○	コ
	コンピュータネットワーク	2												○	情ネ	
オペレーティングシステム	2													○	情コ	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○						情シ	
	デジタル通信		2			○							情ネ	
	形式言語とオートマトン		2					○					コ	
	情報理論		2					○						
	数理計画法		2						○				情コ	
	科学技術英語(情報)	1							○					
	情報学特別講義	2						○						
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ	*半導体人材
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ	*半導体人材
	AIプログラミング言語	1						○						
	AI・データサイエンス実践演習		1						○					
	AI・データサイエンス実践演習		1							○				
	ソフトウェア設計及び演習	2								○				情シ
	ハードウェア設計及び演習		2								○			情コ
	ネットワーク実験	1					○							情ネ
	情報学専門実験	1									○			
	システム創成プロジェクト	2							○					情シ
	情報デザイン		2				○							情マ
情報デザイン		2						○						
創造デザイン		2				○								
情報職業論		1						○					情社	
クリエイティブ情報 コース科目	創造デザイン		2						○					
	卒業研究	6									○		[注1]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注2]	
	理工学入門数学		*2										[注2]	
	理工学入門物理		*2										[注2]	
	理工学入門物理		*2										[注2]	
	理工学入門化学		*2										[注2]	
卒業要件単位数		63	36											
合計必要単位数		99												

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲載しますので、確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 本コースに関連する国家試験・資格試験には、情報処理技術者試験(基本情報技術者、応用情報技術者等)、CG-ARTS検定(CGエンジニア、画像処理エンジニア等)などがあります。
- [5] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

クリエイティブ情報コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 農学領域科目 環境科目 地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題演習科目) ベクトル解析 線形代数B 微分方程式 フーリエ解析 複素解析							
基礎専門科目	基礎数学 線形代数A 微分積分学 確率統計学 物理学A 物理学B 化学A 化学B 生物学							
	ソフトバス理工学実践 科学技術英語(入門) 国際研修							
理工学共通科目	数理・データサイエンス基礎および演習 AI基礎および演習 半導体入門 情報学基礎							
	半導体デバイスと製造プロセス 情報学入門 化学入門 物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基礎・環境工学入門							
工学入門科目	データ解析 離散数学 人工知能 AIプログラミング言語 ソフトウェア構成論 データ構造とアルゴリズム ネットワーク実験 セキュリティとプライバシー							
	AI・データサイエンス実践演習 AIプログラミング言語 システム構成プロジェクト 形式言語とオートマトン コンピュータアーキテクチャ 情報理論							
工学横断科目	データ解析 プログラミング言語及び演習 プログラミング言語及び演習 論理回路 コンピュータネットワーク デジタル通信							
	AI・データサイエンス実践演習 ソフトウェア設計及び演習 数理論法 デジタル回路設計 オペレーティングシステム ハードウェア設計及び演習							
工学横断科目	データ解析 数値計算 画像処理 コンピュータグラフィックス スディアシステム ロボティクス 情報デザイン 情報デザイン 情報デザイン 情報職業論 情報学特別講義							
	AI・データサイエンス実践演習 システム構成プロジェクト 形式言語とオートマトン コンピュータアーキテクチャ 情報理論 信号処理 コンピュータグラフィックス スディアシステム ロボティクス 画像処理とパターン認識 ヒューマンインタフェース 科学技術英語(情報) 情報学専門実験 卒業研究							
工学横断科目	科学技術英語(情報) 情報学専門実験 卒業研究							

赤字: 必修科目  
 青文字: 選択必修科目  
 黒文字: 選択科目

理工学科  
電気電子・情報通信クラス 「電気電子・情報通信コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注3]	
	化学入門		1											
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門	2												
	情報科学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1										代	
		微分積分学	2										解	
		微分積分学	2										解	
		線形代数学 A	2										代	
		微分方程式	2										解	
		ベクトル解析	2										幾	
		複素解析	2	2									解	
	物理系	確率統計学	2											確
		フーリエ解析	2											解
		物理学 A	2											物
化学系	物理学 B		2										物	
	化学 A		2										化	
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門		1										*半導体人材	
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材	
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ	
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ	
	原子力工学		2											
	技術者倫理		2						(前期)					
	工業経営管理論		2						(前期)					
	知的財産権概論		2						(前期)					
	特許法特講		2						(前期)					
	社会体験学習		1~2											
	国際研修		1~2											
	化学 C		2											
情報学基礎		2												
電気数学		2										代		
機械工作実習		1												
コース専門横断科目	人工知能		2										コ *DS副プロ	
	データベース		2										情シ *DS副プロ	
	セキュリティとプライバシー		2										情社 *DS副プロ	
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ	
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ	
電気電子・情報通信 コース科目	電気回路論		2										工	
	電気回路論		2										工	
	電気回路論		2										工	
	電磁気学		2										工	
	電磁気学		2										工	
	電磁波工学		2										工	
	電子材料物性学		2										工 *半導体人材	
	半導体 LSI 工学		2										工 *半導体人材	
	電子デバイス工学		2										工 *半導体人材	
	電子デバイス工学		2										工 *半導体人材	
	アナログ電子回路		2										工	
	デジタル電子回路		2										工	
	応用電子回路		2										工	
	電気電子計測学		2										工	
	情報通信理論		2											
情報通信ネットワーク		2												

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考											
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次													
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
電気電子・情報通信 コース科目	通 信 シ ス テ ム		2																		工		
	コ ン ピ ュ ー タ 工 学	2																					
	制 御 シ ス テ ム 工 学	2																				工	
	デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理		2																				
	光 エ レ ク ト ロ ニ ク ス		2																			工	
	エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学	2																				工	
	電 気 機 器 工 学		2																				工
	高 電 圧 プ ラ ズ マ 工 学		2																				工
	発 電 工 学		2																				工
	送 配 電 工 学		2																				工
	電気電子・情報通信工学基礎実験	2																					
	電気電子・情報通信工学応用実験	2																					
	プログラム言語及び演習	2																					
	組込ソフトウェア実習	1																					工
	組込ハードウェア実習	1																					工
	電気電子・情報通信工学英語研修	1																					
	科学技術英語(電気電子・情報通信)	1																					
	電気電子・情報通信工学専門研修		1																				
	電気電子・情報通信工学特別講義		2																				工
	電気電子・情報通信工学先端課題実習	1																					
	電 気 設 計 製 図		2																				工
電 気 法 規		2																					
電 波 法 規		2																					
卒 業 研 究	6																					{注1}	
高大連携科目	理 工 学 入 門 数 学		* 2																				{注2}
	理 工 学 入 門 数 学		* 2																				{注2}
	理 工 学 入 門 物 理		* 2																				{注2}
	理 工 学 入 門 物 理		* 2																				{注2}
	理 工 学 入 門 化 学		* 2																				{注2}
卒 業 要 件 単 位 数	70	29																					
合 計 必 要 単 位 数	99																						

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲載しますので、確認しておいてください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その科目がコースの科目と講義内容が重複する恐れがある場合、履修申告前に担任に相談してください。
- [4] 工場見学を3年次の適当な時期に実施します。
- [5] 本コース卒業生で申請により取得できる資格、又は受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。ただし、資格によって所要の単位を修得する必要があります。
  - (1)電気主任技術者 (一定の実務経験で申請により取得)
  - (2)電気通信主任技術者 (「電気通信システム」の試験を免除)
  - (3)第一級陸上無線技術士 (「無線工学の基礎」の試験を免除)
  - (4)第一級陸上特殊無線技士 (申請により取得)
  - (5)第二級海上特殊無線技士 (申請により取得)
  - (6)第二種電気工事士 (筆記試験を免除)
 なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- [6] 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [7] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

電気電子・情報通信コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育領域科目 理学 理学領域科目 環境科目 地域関連科目（地域科目）		地域関連科目（地域課題演習科目）					
	基礎数学 微分積分学 物理学A 化学A 理工学入門(オムニバス)		線形代数学A 微分積分学 複素解析 物理学B 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 情報学入門 機械知能航空入門 社会基礎・環境工学入門		ベクトル解析 微分方程式 複素解析 フーリエ解析			
専門基礎科目	ソフトウェア工学実習 科学技術英語(入門)		ソフトウェア工学実習 科学技術英語(入門)		ソフトウェア工学実習 科学技術英語(入門)		ソフトウェア工学実習 科学技術英語(入門)	
工学専門科目	半導体入門 A)基礎および演習		半導体デバイスと製造プロセス A)基礎および演習		半導体デバイスと製造プロセス A)基礎および演習		半導体デバイスと製造プロセス A)基礎および演習	
学部内共通科目	国際研修		国際研修		国際研修		国際研修	
学部内共通科目	電子デバイス ものづくり課題実習		セキュリティとプライバシー ものづくり課題実習		人工知能 ものづくり課題実習		人工知能 ものづくり課題実習	
	電気回路論 電磁気学 電気電子計測学 電子材料物性学		電気回路論 電磁気学 デジタル電子回路 アナログ電子回路 情報通信理論 電子デバイス工学 エネルギー変換工学		電気回路論 電磁気学 制御システム工学 応用電子回路 情報通信ネットワーク コンピュータ工学 電気機器工学 電子デバイス工学 半導体デバイス工学 電気電子・情報通信工学専門研修		電気回路論 電磁気学 制御システム工学 応用電子回路 情報通信ネットワーク コンピュータ工学 電気機器工学 電子デバイス工学 半導体デバイス工学 電気電子・情報通信工学専門研修	
電気電子・情報通信コース科目	プログラム言語及び演習 電気電子・情報通信工学英語研修		電気電子・情報通信工学基礎実験 電気電子・情報通信工学応用実験		電気電子・情報通信工学基礎実験 電気電子・情報通信工学応用実験		電気電子・情報通信工学基礎実験 電気電子・情報通信工学応用実験	
	卒業研究		卒業研究		卒業研究		卒業研究	

赤字：必修科目  
黒文字：選択科目

半導体育成科目

理工学科  
機械知能航空クラス 「機械知能航空コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											〔注3〕 選択必修2科目(2単位)
	化学入門		1										
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門		1										
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学A	2										代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析入門		1									解
	物理系	確率統計学	2										確
		フーリエ解析	2										解
		物理学A	2										物
	物理系	物理学B	2										物
		物理学実験	1										物実
	化学系	化学A	2										化
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論		2										
	知的財産権概論		2							(前期)			
	特許法特講		2							(前期)			
	社会体験学習		1~2										
	国際研修		1~2										
	化学C		2										
情報学基礎		2											
電気数学		2										代	
機械工作実習		1											
コース専門横断科目	人工知能		2										コ *DS副プロ
	データベース		2										情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2										情社 *DS副プロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
機械知能航空コース科目	機械製図		1										工
	CAD実習		1										工
	プログラミング言語実習		1										
	材料力学		2										工
	材料力学演習		1										
	機械材料学		2										工
	流体力学		2										工
	流体力学演習		1										
	機械製図		1										工
	機械加工学		2										工
	機械力学		2										工
	機械力学演習		1										
	熱力学		2										工
熱力学演習		1											
機械実験		1											



機械知能航空コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	環境科目							
	地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題演習科目)							
	理工学入門	化学入門						
コア専門入門科目	教理・物理入門							
	材料科学入門							
	電機電子・情報通信入門							
	情報入門							
	機械知能航空入門							
	社会基礎・環境工学入門							
	線形代数学A	ベクトル解析	フーリエ解析	複素解析入門				
	微分積分学	微分方程式						
	物理A	物理B						
	化学A	化学B						
専門共通科目	ソフトウェア工学序論							
	機械工作実習							
	半導体入門							
	教理・データサイエンス基礎および演習							
	AI基礎演習および演習							
	国際研修(集中)							
	半導体デバイスと製造プロセス							
	社会体験学習(集中)							
	工業経営管理論(集中)							
	知的財産権概論(集中)							
コース専門横断科目	特許法特講(集中)							
	原子力工学(集中)							
	技術者倫理							
	人工知能							
	セキュリティとプライバシー							
	データベース							
	機械製図	機械製図	機械製図	機械設計学				
	CAD実習			2D/3Dモデリング実習				
	プログラミング言語実習	数値計算アルゴリズム	プログラミング言語実習	計算力学				
	材料力学演習	材料力学	固体力学					
機械材料学	機械加工学	精密工学	トライボロジー					
コース科目	流体力学	機械力学	機械工学	システム制御工学				
	流体力学演習	機械力学演習	生体工学	センシング工学				
		粘性流体工学		航空流体工学				
		熱力学	伝熱工学					
		熱力学演習	燃焼工学					
		先端機械工学概論(20)	先導機械工学概論(20)					
		キャリアデザイン(10)	キャリアデザイン(10)	機械リサーチ研修				
				科学技術英語(機械)				
				卒業研究				

塗りつぶし(太枠)がある科目は必修科目  
塗りつぶしがない(細枠)科目は選択科目



区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
社会基盤・環境工学 コース科目	水 理 学	2													物	
	水 理 学	2													物	
	水 理 学 演 習		1												物	
	水 工 学	2													工	
	土 質 力 学	2													物	
	土 質 力 学	2													物	
	土 質 力 学 演 習		1												物	
	地 質 工 学	2													地	
	岩 盤 力 学	2													工	
	耐 震 工 学	2													物	
	地 震・火 山 防 災 工 学	2													地	
	水・土 砂 防 災 工 学	2													地	
	都 市 計 画 学	2													工	
	交 通 計 画 学	2													工	
	公 共 政 策 学		2												工	
	上 下 水 道 工 学	2													工	*半導体人材
	環 境 工 学	2													工	
	水 環 境 工 学		2												化	*半導体人材
	大 気 環 境 工 学		2												化	
	土 壌 環 境 工 学		2												工	
	生 態 環 境 保 全 学		2												工	
	資 源 循 環 工 学		2												工	*半導体人材
	設 計 製 図	1													工	
施 工 法	2															
特 別 演 習		1														
卒 業 研 究	6													○	〔注1〕	
高大連携科目	理 工 学 入 門 数 学		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 数 学		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 物 理		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 物 理		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 化 学		* 2												〔注2〕	
卒 業 要 件 単 位 数	72	27														
合 計 必 要 単 位 数	99															

注意事項

- 〔注1〕 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- 〔注2〕 [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- 〔注3〕 [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- (1) このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- (2) 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- (3) この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- (4) 卒業生が申請により取得できる資格、又は受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
- (1)技術士補 ( 修習技術者と認定、申請取得)
  - (2)技術士 ( 技術士補取得後、実務経験4年で受験資格)
  - (3)1級土木施工管理技士 ( 卒業後実務経験3年で受験資格)
  - (4)2級土木施工管理技士 ( 卒業後実務経験1年で受験資格)
  - (5)測量士補 ( 申請取得)
  - (6)測量士 ( 測量士補登録後、実務経験1年で申請により取得)
  - (7)作業環境測定士(1種、2種) ( 労働衛生・要実務経験)
  - (8)公害防止管理者 ( 資格認定講習受講・要実務経験)
  - (9)廃棄物処理施設技術管理者 ( 要実務経験)
  - (10)冷凍空調技士(第1種) ( 要実務経験)
  - (11)1級建築施工管理技士 ( 卒業後実務経験3年で受験資格)
  - (12)2級建築施工管理技士 ( 卒業後実務経験1年で受験資格)
- なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- (5) 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- (6) 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

社会基盤・環境工学コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 情報知科目 探求知科目 実践知科目							
工学入門科目	理工学入門 社会基盤・環境工学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 情報学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門							
専門基礎科目	基礎数学 微分積分学A 物理学A 化学A 線形代数学A 微分積分学B 物理学B 化学B 確率統計学 ソフトバス理工学実践 ソフトバス理工学英語(入門) 化学C 半導体入門 情報学基礎 AI基礎および演習 機械工学実習 電気数学							
理工学専門共通科目	国際研修 半導体デバイスと製造プロセス 社会基盤・環境工学実習 技術者倫理 工業経営管理論 知的財産権概論 特許法特講 原子力工学 工業経営管理論 知的財産権概論 特許法特講 原子力工学							
工学専門科目	データベース セキュリティとプライバシー 地域創生課題演習 人工知能 特別演習 測量学 測量学実習 社会基盤・環境工学実験 測量学実習 社会基盤・環境工学実験							
工学科目	構造力学 コンクリート工学 水理学 土質力学 土質力学 都市計画学 環境工学 交通計画学 上下水道工学 鋼構造学 道路工学 水理学演習 水工学 土質力学演習 地質工学 地質・火山防災工学 公共政策学 水環境工学 大気環境工学 資源循環工学 岩盤工学 洞窟工学 水・土砂防災工学 施工法 生態環境保全学 土壌環境工学 卒業研究							

赤字：必修科目  
黒文字：選択科目

理工学科  
データサイエンス応用オープンクラス（初年次のみ）

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注2]
	化学入門		1											選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門		1											
	情報学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門 基礎科目	[注3]													[注3]
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門		1											*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1											*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ
	原子力工学		2											
	技術者倫理		2						(前期)					[注6]
	工業経営管理論		2							(前期)				
	知的財産権概論		2							(前期)				
	特許法特講		2							(前期)				
	社会体験学習		1~2											
	国際研修		1~2											
	化学C		2											
情報学基礎		2											代	
電気数学		2												
機械工作実習		1												
コース専門横断科目	[注4]													[注4]
コース科目	[注5]													[注5]
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注1]
	理工学入門数学		*2											[注1]
	理工学入門物理		*2											[注1]
	理工学入門物理		*2											[注1]
	理工学入門化学		*2											[注1]

注意事項

- [注1] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位には含まれません。
- [注2] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)以上を履修しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。
- [注3] 2年次以降に所属したいコースの「専門基礎科目」区分を参照のうえ履修してください。
- [注4] 2年次以降に所属したいコースの「コース専門横断科目」区分を参照のうえ履修してください。
- [注5] 2年次からの所属コースの教育課程に従って履修してください。
- [注6] この科目は、所属コースによって必修/選択が異なります。
- [注7] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

(3) 教職に関する科目・教科に関する科目表

科目区分及び授業科目 (注1)		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
教職に関する科目	教職入門	2	←	→							
	教育概論	2			←	→					
	教育・学校心理学	2		←	→						
	教育法規	2			←	→					
	学校経営・制度論	2			←	→					
	特別支援教育	2			←	→					
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			←	→					
	特別活動の理論と方法	2		←						→	
	教育課程・教育方法論	2			←	→					
	教育におけるICT活用法	1					←	→			
	生徒指導・進路指導	2		←				→			
	教育相談	2		←				→			
	教職実践演習	2								←	→
	教育実習	3								←	→
教育実習事前事後指導	3					←	→				
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法	2			←	→					
	数学科教育法	2			←	→					
	理科教育法	2			←	→					
	理科教育法	2			←	→					
	情報教育法	2			←	→					
	情報教育法	2			←	→					
	工業教育法	2			←	→					
	工業教育法	2			←	→					
	職業指導	2			←	→					

(注1) 本表の科目は、卒業要件単位数に含まれません。

# 教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

# 教育職員免許状・各種資格の取得方法

## 1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが2.5単位～3.7単位）及び教養教育科目として開講している「**憲法**」2単位、「**健康・スポーツ科目**」から2単位、「**英語コミュニケーション**」**・**、**中級ドイツ語**、**中級フランス語**、**中級ロシア語**、**中級中国語**、**中級韓国語**」から2単位、「**情報基礎A**」2単位を修得する必要があるため、相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生は - 8ページ以降のとおりです。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

### ・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を7日間行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

### ・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域	
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語、社会、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、英語	
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民	
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状		
		中学校教諭1種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報、音楽、美術、保健体育、英語	
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域	
理工学部	理工 学科	化学コース	高等学校教諭1種免許状	数学、理科、情報、工業
		数理・物理コース		
		材料科学コース		
		知能情報コース		
		クリエイティブ 情報コース		
		電気電子・情報通信 コース		
		機械知能航空 コース		
		社会基盤・環境工学 コース		
農学部	食料農学科	高等学校教諭1種免許状	理科、農業	
	生命科学科		理科	
	地域環境科学科		理科、農業	
	動物科学・水産科学科			

## 理工学部

本学部で取得できる教員免許状（ -1ページ参照）を取得するためには、以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 基礎資格（学士の学位）を有していること
- 2) -11ページ表1に示す、教職に関する科目を**26単位**修得していること
- 3) 表2に示す各教科の指導法に関する科目を**4単位**修得していること及び -13～ -18ページ表3に示す教科に関する科目を**31単位**修得していること（計**35単位以上**）
- 4) 教養教育科目で開講している、下記の単位を修得していること（計**8単位**）  
 「憲法」2単位 「健康・スポーツA」1単位 「健康・スポーツB」又は「健康・スポーツC」1単位  
 「英語コミュニケーション」1単位 「英語コミュニケーション」1単位 「情報基礎A」2単位

詳細については、**1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修してください。**なお1年次前期に「教職入門」を履修できない学生は、学生センターA棟 番窓口（学務課）に相談してください。

教員免許状に関する問い合わせ先は、学生センターA棟 番窓口（学務課）です。

表1．教職に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 注1	修得すべき単位数 (合計26単位)				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 注4		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	2	2	2	2	1	前期
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2	2	2	2	2～	前期
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	2	2	2	1～	後期
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規 注2	2	2	2	2	2～	前期
		学校経営・制度論 注2						後期
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2	2	2	2～	前期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2	2～	後期
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	2	1～	後期
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2	2	2	2	2～	前期
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	1	1	1	1	3～	後期
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	2	1～	後期
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	2	1～	後期
	教育実践に関する科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	2	2	2	2	4
教育実習		教育実習（教育実習事前・事後指導1単位含む） 注3	3	3	3	3	3～4	

表 2 . 各教科の指導法に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 注 1	修得すべき単位数 (合計 4 単位)				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 注 4		
教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法	2	-	-	-	2~	前期
		数学科教育法	2	-	-	-	2~	後期
		理科教育法	-	2	-	-	2~	前期
		理科教育法	-	2	-	-	2~	後期
		情報教育法	-	-	2	-	2~	前期
		情報教育法	-	-	2	-	2~	後期
		工業教育法	-	-	-	2	2~	前期
		工業教育法	-	-	-	2	2~	後期

注 1 ・理工学部在籍時に、理工学部で開設している科目で必要単位を取得してください。  
 ・隔年開講又は専門科目(必修)と開講時期が重なる等で履修できない場合は、次年度以降に履修して単位を取得してください。

注 2 「教育法規」又は「学校経営・制度論」から 1 科目を選択履修してください。

注 3 教育実習については、ガイダンスを 3 年次の 5 月頃におこないますが、特に以下のことに注意してください。

(1) 教育実習ができる条件について(下記 1~5 を全て満たしている必要があります)

- 1) 卒業見込みの者(研究室に配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の 1 / 2 以上(13 単位)を修得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の 1 / 2 以上(16 単位)を修得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を 2 単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること

\* ただし、編入学生には適用しません。

(2) 実習校及び実習期間について

実習校は、原則として各自の出身校とします。実習期間は 2 週間で、例年 6 月~ 9 月の予定ですが、実習校の事情により多少の変更もあります。

3 年次の 7 月頃に、大学から実習校への依頼書を配付し、夏期休業中に実習予定者自身が持参して内諾をもらう必要がありますが、受け入れ人数に制限があり受け入れを断られる場合もあるので、2 年次の終わり頃など、早めに出身校と連絡を取って確認してください。

(3) 事前・事後指導について

教育実習は、実習の他に事前指導(3 年次・4 年次)と事後指導(4 年次)を必ず受けなければなりません。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

注 4 「工業」の免許状における教職に関する科目の 2.6 単位及び教科の指導法に関する科目の 4 単位の計 3.0 単位については、全部又は一部を教科に関する科目(工業)で代替することができます。ただし、コースによっては履修すべき単位(職業指導を除き 5.9 単位)に不足することもありますので、その場合は、学生センター A 棟番窓口(学務課)に相談してください。

表3. 教科に関する科目の修得すべき単位数

**理工学科 【数学】**

数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、  
電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○ 基礎数学	1		1以上	合計 31
	○ 線形代数学A	2			
	線形代数学B	2			
	離散数学	2			
	電気数学	2			
	計算力学	2			
幾 何 学	ベクトル解析	2		1以上	
	物理数学演習	1			
	○ 幾何学	2			
	幾何学	2			
解 析 学	○ 微分積分学	2		1以上	
	微分積分学	2			
	微分方程式	2			
	複素解析	2			
	フーリエ解析	2			
	物理数学演習	1			
	応用微分方程式	2			
	応用解析学	2			
	複素解析入門	1			
「確率論、統計学」	○ 確率統計学	2		1以上	
	応用確率統計学	2			
	データ解析	2			
コンピュータ	数値計算法	2		1以上	
	プログラミング学	2			
	人工知能	2			
	論理回路	2			
	数値計算	2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			
	形式言語とオートマトン	2			
	数値計算アルゴリズム	2			
	システム制御工学	2			

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。（印から1科目2単位以上修得すること）

- ・ 下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分(-19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。  
他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科 【理科】

化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○ 物理学A	2		1以上	
	物理学B	2			
	熱力学	2			
	電磁気学	2			
	電磁気学	2			
	量子物理学	2			
	統計物理学	2			
	光学	2			
	固体物理学	2			
	電子物性学	2			
	磁性理工学	2			
	超伝導理工学	2			
	ナノ理工学	2			
	量子物理学	2			
	粒子線計測学	2			
	現代物理学	2			
	現代物理学	2			
	振動論	2			
	構造力学	2			
	構造力学	2			
	構造力学演習	1			
	水理学	2			
	水理学	2			
	水理学演習	1			
	土質力学	2			
	土質力学	2			
土質力学演習	1				
耐震工学	2				
化 学	○ 化学A	2		1以上	合計 31
	化学B	2			
	有機化学	2			
	有機化学	2			
	無機化学	2			
	無機化学	2			
	物理化学	2			
	物理化学	2			
	化学工学	2			
	有機化学演習	1			
	有機化学演習	1			
	有機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	高分子化学	2			
	無機分析化学	2			
	医薬品化学	2			
	無機材料化学	2			
	化学工学	2			
	次世代電池工学	2			
	触媒化学	2			
	有機分析化学	2			
	表面化学	2			
	応用電気化学	2			
	結晶工学	2			
	エネルギー環境科学	2			
半導体分子化学	2				
化学概論	2				

	化学研修	1		
	化学理工学情報	1		
	化学理工学情報	1		
	化学理工学研修	1		
	材料物理化学I	2		
	材料電気化学	2		
	水環境工学	2		
	大気環境工学	2		
生 物 学	○ 生物学	2		1以上
	生物化学	2		
	生物化学	2		
	生物有機化学	2		
	ケミカルバイオロジー	2		
地 学	○ 地学	2		1以上
	地質工学	2		
	地震・火山防災工学	2		
	水・土砂防災工学	2		
「物理学実験、化学実験、 生物学実験、地学実験」	物理学実験	1		1以上
	物理・材料理工学実験	2		
	化学理工学実験	3		
	化学理工学実験	3		
	化学実験	1		
	物理・材料理工学実験	2		
	社会基盤・環境工学実験	1		

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。（印から1科目1単位以上修得すること）

・下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分（-19ページ表4参照）を確認し、開設コースで受講してください。

他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科 【情報】

知能情報コース、クリエイティブ情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	○ 情報社会と倫理	2	教育学部開設科目	1以上	合計 31
	セキュリティとプライバシー	2			
	○ 情報職業論	1			
コンピュータ・情報処理	信号処理	2		1以上	
	デジタル回路設計	2			
	○ オペレーティングシステム	2			
	数理計画法	2			
	コンパイラ	2			
	○ プログラミング言語及び演習	2			
	○ プログラミング言語及び演習	2			
	○ データ構造とアルゴリズム	2			
	ハードウェア設計及び演習	2			
情報システム	○ データベース	2		1以上	
	ロボティクス	2			
	○ ソフトウェア構成論	2			
	○ ソフトウェア設計及び演習	2			
	○ システム創成プロジェクト	2			
情報通信ネットワーク	○ コンピュータネットワーク	2		1以上	
	デジタル通信	2			
	○ ネットワーク実験	1			
マルチメディア表現・マルチメディア技術	画像処理とパターン認識	2		1以上	
	○ メディアシステム	2			
	ヒューマンインタフェース	2			
	コンピュータグラフィックス	2			
	情報デザイン	2			

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

・下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分( -19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。

理工学科 【工業】

数理・物理コース、材料科学コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数
職業指導	○ 職業指導	2	理工学科	2
工業	材料組織学	2		合計 31
	電気回路学	2		
	材料計測学	2		
	誘電体材料学	2		
	半導体理工学	2		
	半導体デバイス工学	2		
	材料力学	2		
	材料物理化学	2		
	材料組織学	2		
	金属構造材料学	2		
	材料強度学	2		
	工口材料学	2		
	接合工学	2		
	反応工学	2		
	製錬工学	2		
	鑄造材料学	2		
	複合材料学	2		
	生体材料学	2		
	非鉄金属材料学	2		
	電子デバイス工学	2		
	電子デバイス工学	2		
	半導体LSI工学	2		
	電気回路論Ⅰ	2		
	電気回路論	2		
	電気回路論	2		
	電磁気学	2		
	電磁気学	2		
	電磁波工学	2		
	電子材料物性学	2		
	アナログ電子回路	2		
	応用電子回路	2		
	電気電子計測学	2		
	通信システム	2		
	制御システム工学	2		
	光エレクトロニクス	2		
	エネルギー変換工学	2		
	電気機器工学	2		
	高電圧プラズマ工学	2		
	発電工学	2		
	送配電工学	2		
	組込ソフトウェア実習	1		
	組込ハードウェア実習	1		
	電気電子・情報通信工学特別講義	2		
電気設計製図	2			
精密工学	2			
トライボロジー	2			
機械製図	1			
CAD実習	1			
材料力学	2			
機械材料学	2			
流体力学	2			
機械製図	1			
機械加工学	2			
機械力学	2			
熱力学	2			
制御工学	2			
機械設計学	2			
材料力学	2			
粘性流体工学	2			

	固体力学	2		
	伝熱工学	2		
	燃焼工学	2		
	生体工学	2		
	センシング工学	2		
	航空流体工学	2		
	機械材料学	1		
	ロボティクス工学	2		
	航空宇宙システム工学	1		
	測量学	2		
	環境工学	2		
	測量学実習	1		
	測量学実習	1		
	鋼構造学	2		
	コンクリート工学	2		
	鉄筋コンクリート工学	2		
	道路工学	2		
	施設維持管理工学	2		
	水工学	2		
	岩盤力学	2		
	都市計画学	2		
	交通計画学	2		
	公共政策学	2		
	上下水道工学	2		
	土壌環境工学	2		
	生態環境保全学	2		
	資源循環工学	2		
	設計製図	1		

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。( 印から1科目1単位以上修得すること)

- ・ 下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分( -19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。  
他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

表4 . 教科に関する科目 科目区分一覧

教育課程表の備考欄に表示する略語

教科名	科目区分	略語
数学	代数学	代
	幾何学	幾
	解析学	解
	「確率論、統計学」	確
	コンピュータ	コ
理科	物理学	物
	化学	化
	生物学	生
	地学	地
	「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	物実 化実 生実 地実
情報	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	情社
	コンピュータ・情報処理	情コ
	情報システム	情シ
	情報通信ネットワーク	情ネ
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	情マ
工業	工業の関係科目	工
	職業指導	

## 2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－４８～５０ページ
教育学部	Ⅳ－４３～６６ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

# 国際教育科目について

## 国際教育科目について

### 1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

#### 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

#### < 共修科目群リスト >

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A - Ikebana A	2	1	前期	英語
	Japanese Traditional Culture B- Ikebana B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修 世界から地域を考える」履修者対象
	学内留学	2	2、3、4	後期	
	国際合宿	2	2、3、4	前期	集中

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

### 交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また、科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが、正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」\*として登録した科目については単位が認められます。

### < 交換留学生専用科目群 >

#### 日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語 会話	1	前期・後期	
初級日本語 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

## 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割、単位数、履修手続き、試験、成績評価等については、「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

## 2. 履修方法および開設授業科目

履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

# その他プログラムについて

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第 4 期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し、社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・AIに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため、教養教育と各学部の専門教育では、数理・データサイエンス・AIに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・AIに係る知識やスキルは、理系学部生の必須能力に留まらず、人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しいAIは、今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから、本学では、在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し、実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では、令和 4 年度に文部科学省から、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは、教養教育科目の必修科目で対応しているため、全学生が認定されます。また、MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは、教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており、学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和 6 年度には教育学部の教育プログラムが認定され、令和 5 年度入学生から適用されています。人文社会科学部、理工学部、農学部、獣医学部（令和 6 年度入学生までは農学部共同獣医学科）については令和 6 年度入学生から同教育プログラムを開始しており、令和 7 年度に認定されました。

なお、令和 7 年度から入学する理工学部、農学部の学生については、「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり、データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために、認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部、教育学部、獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目、修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

応用基礎レベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html>

## IHATOVO グローバルコースについて

### 1. IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化する課題をグローバルな視点から理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

### 2. コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度のGlobal Mileage を獲得した者にはIHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

### 3. コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別に Global Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

\* 一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。

\* マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件(成績、単位数、面接評価等)に加えることもあります。

#### < 認定方法 >

1) A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること

2) マイルの合計が一定のマイル数に到達していること

ブロンズ = 800 マイル   シルバー = 1200 マイル   ゴールド = 2000 マイル

### <認定基準>

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	800マイル
シルバー	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	1200マイル
ゴールド	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	2000マイル

#### 4. 履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、国際教育センターホームページ、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等で確認してください。

対象学年以上の正規学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html>



# イーハトーヴ協創コースについて

## 1. イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では、全学部の学生を対象とした共修プログラム（ ）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being)を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、岩手で生きる、岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通じ、心の豊かさやイノベーションマインドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。

（ ）共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

### （1）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは、教養教育科目を中心に、デザイン思考、マーケティング、プロジェクトマネジメント、課題解決型インターンシップなど、アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成や、地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高めるための科目、企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで、専門性と実践力を身につけます。

これらの学修過程を可視化するため、「地域協創マイレージ」を導入し、正課教育に加え正課外活動を含めてポイント化し、履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます）。

### （2）コースの受講対象者、登録・認定方法

- ・ 本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できます。
- ・ コースは自動エントリー制であり、履修をするための特段の手続きは不要です。
- ・ コースに関連する科目の単位を取得した場合や、課外活動を実施し所定の手続きを行った場合、「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。

## 2. コースの構成

### （1）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお、授業科目には、必修科目とコア（選択必修）科目、選択科目の3種類があり、段階ごとに修得すべき単位数が定められていますので、注意してください。

なお、正課教育で取得した単位は1単位 = 50 地域協創マイレージに換算します。

## コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目 （選択必修）	1単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	2単位	社会連携学 A・B、 キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目、地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

## 開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

## （2）正課外活動

- 地域課題解決プログラム、学内カンパニー、NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや、イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加、他大学や他機関との連携プログラム等について、以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

### < 地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安） >

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 1単位科目	50
	イーハトーヴ協創コース関連科目 2単位科目	100
正課外活動	単発型のイベント	10
	3日程度の短期イベント	50
	3日以上～1週間程度の中長期イベント	100
	インターンシップ、通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	150
	長期研修・長期インターンシップ、通年の実践活動（リーダーとして参画）	300

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

### 3. コースの評価・認定方法

- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・ 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了）」と記載されます。
- ・ また、本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- ・ 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- ・ 認定証と併せ、就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

#### (1) 認定方法

- ・ イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を5つのカテゴリーに分類し、それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

マインドセット
ツール
キャリア
アクション
専門知識

- ・ 各カテゴリーから、該当する授業、活動を最低1つずつ取得していることが認定要件となります。
- ・ マイレージの認定について、授業は自動認定されますが、正課外活動については、認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- ・ 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので、随時活用してください。

#### (2) 認定基準

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修2、コア2 （200マイル）	専門2 （100マイル）	100マイル	400マイル
シルバー	必修2、コア4 （300マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	300マイル	800マイル
ゴールド	必修2、コア8 （500マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	500マイル	1200マイル

#### 4. 履修モデル

- ・ イーハトーフ協創コースを受講する学生に対し、カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに、コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- ・ 履修モデルはあくまでも参考提示であり、学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので、履修の参考としてください。

なお、専門科目については、原則、所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

#### 5. 履修方法および開設授業科目

イーハトーフ協創コースの履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび地域協創教育課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

#### 6. 本件担当

地域協創教育センター（学生センターB棟1階）

<https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html>



# 関係法規等

## 岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する申し合わせ
8. 岩手大学転学部に関する規則
9. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
10. 岩手大学編入学取扱規則
11. 岩手大学編入学生の教養教育科目及び共通教育科目履修基準
12. 岩手大学再入学取扱規則
13. 岩手大学研究生規則
14. 岩手大学科目等履修生規則
15. 岩手大学外国人留学生規則
16. 成績評価基準について
17. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

## 関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律